



LET'S DO IT WORLD  
**ANNUAL REPORT**

**2023**

- 年次報告 -

# Contents

● Let's Do It World 代表からのメッセージ .....	2
● 担当ディレクターからのメッセージ .....	3
● Let's Do It World アンバサダー .....	9
● ミッション・ビジョン・ヴァリュー .....	14
● 沿革 .....	16
● インパクトモデル .....	18
● ネットワークとメンバーシップ .....	21
● 受賞歴 .....	24
● World Cleanup Day 2023 .....	25
● World Cleanup Day 感動ストーリー .....	36
● グローバルプロジェクトとキャンペーン .....	46
● アドボカシー活動 .....	52
● パートナーシップ .....	60
● 重要業績評価指標 .....	62





## Let's Do It World 代表からのメッセージ



Heidi Solba,  
ヘイディ・ソルバ

代表 兼 グローバルネットワーク長

とても刺激的で挑戦のしがいのある、  
そして恵まれた年がまた一つ過ぎました！  
2023年、Let's Do It World はその過程で  
いくつかの重要なマイルストーンを達成しました。  
でも、やるべきことはまだまだたくさんあります。

周囲を見回し、世界のニュースを追っていると、国際組織として私たちは十分な努力をしてきたとは言えません。このことから、時間は大切に有意義に扱われるべき贅沢なものであることに気がつきます。したがって、それを無駄にするわけにはいきません。無駄にした時間は世界中の命を環境面で危険に晒しかねないのです。

Let's Do It World はグローバル チームとともに、地球上の主要なグローバル環境組織の1つとして重要な役割を果たしています。環境意識に取り組む人が増えれば増えるほど、より前向きな変化を生み出すことができます。そしてその緊急性はこれまで以上に高まっています。

こうした外面だけでなく、内部でも課題に直面しました。本部リーダーシップチーム内の異動、そして組織の今後数年先を見据えた新たな戦略的方向性プロセスの始動、そして増え続ける資金調達環境や内部変革プロセスなど、予想よりも時間がかかりました。

しかし、私たちはこれらすべての課題を克服し、組織として、そし

て人として成長する機会を掴みました。私たちの成功を支援し、努力し続けてくれたすべての人々、そしてこれからもそうし続けてくれるすべての人々に深く感謝いたします。

長年にわたる私たちの組織の成長は、World Cleanup Dayに始まり、持続的な変化を目指すグリーンプロジェクトにまで広がり、Let's Do It World モデル内の強力なアプローチに従ってきました。たとえば、World Cleanup Day を通じてプラスチック汚染に取り組んだり、また地域レベルでの予防と解決策にも焦点を当てたり、私たちの総合的なアプローチを通じて体系的な変化を促していることは明らかです。

世界は私たちを必要としており、わずか6回のWorld Cleanup Dayを実施しただけで、2023年の今年、私たちはドバイのCOP28で発表された国連カレンダーに掲載されるという目標を達成しました。これは単に驚異的であり、信じられないほどの成功を収めた年の締めくくりであります。夏には国連SDG動員賞も受賞しました。

私たちのすべてのリーダー、チーム、パートナー、アンバサダー、スポンサー、関係者全員のサポートに深く感謝しております。また、国連カレンダーに正式に登録されるまでの全プロセスを2年以上かけて支えてくれたエストニア政府にも感謝の意を表します。

しかし、これらの成功は中心組織だけではなく、広範囲のネットワークにとっても深い意味を持ちます。なぜなら、最も重要な問題は、国連デーへの組み込みを私たちがどのように活用できるか、真の意味での大規模な活動への参加をどのように生み出すことができるかにかかっていて、その結果が持続可能な社会変化の可能性を社会全体に高めることになるからです。国連の枠組みに私たちが加えられたことにより、より多くの参加が促され、より意義のある協力が進み、広く共感を得ることになります。

あらゆるポジティブなグローバル変革の基盤は、率直な相互理解と協力の上に成り立っています。私たちは、自らの価値観や目標にしっかりコミットしていると思っています。グローバルネットワークの継続的でさらに深まるご尽力に深謝いたします。

**この困難ながらやりがいのあったこの1年間、私たちにお付き合くださった皆様に心より御礼申し上げます。**

## 担当ディレクターからのメッセージ



**Christine Sayo,**  
**クリスティーヌ・サヨ**  
アフリカ地域担当ディレクター

2023年はアフリカ、そして世界にとって素晴らしい年となりました。私たちはアフリカで Let's Do It ムーブメントの大きなマイルストーンとその場面を目にしてきました。清潔なアフリカを目指してムーブメントを展開し、発展し続けるために多くの時間を費やしてくれた、アフリカ全土に散らばるリーダーたちの献身的な努力のおかげです。

「Let's Do It モザンビーク」は、カルロス・セラ氏の有能なリーダーシップの下、2023年の World Cleanup Dayで最多の参加者数を記録し、325万人の国民を結集させました。

ケニアは、国連のカレンダーに World Cleanup Day を追加させることを目標として、政府、市民社会、学術機関、国連代表の関係者が出席した世界環境デーを主催し、成功を収めました。ガーナでは、Let's Do It リーダーのケイト・オポク氏が、国内で最も影響力のあるごみ管理の提唱者として賞を受賞しました。

タンザニアでは、アナとニベ・ファジオのチーム（Let's Do It

World 実践パートナー）が、アフリカなどの国でごみゼロの実行を広げることを目的として、さまざまな国から集まった50人以上の参加者を対象にゼロごみアカデミーを開催しました。

これらの例は、アフリカの人々が自分たちの環境に配慮し、大陸全体の生活の質を向上させるための対策を講じ始めたことを物語っています。こうした取り組みが目標に向かって前進つづける環境を整える責任は全員にあります。そのための一つの方法は、これらの取り組みとその背後にいるアフリカのリーダーたちにスポットライトを当てることです。彼らの努力は称賛されなければなりません！

2024年に向けて、気候変動の影響を緩和するためにアフリカ人がアフリカ人のために行った素晴らしい取り組みを祝し、脚光をあて続けましょう。アフリカの Let's Do It ムーブメントの偉大なリーダーたちが成した仕事とポジティブな影響を認め、感謝の意を表しましょう。絶対にできる！ だから Let's Do It!



**Bill Willoughby,**  
**ビル・ウィロビー**  
北米地域担当ディレクター

私たちは、北米の地方自治体、企業、機関、組織におけるごみ関連の問題と社会的責任について意識を高めるために、新しく進化したテクノロジーとマーケティング手法を積極的に開発してきました。

多面性のあるテクノロジーとマーケティングプラットフォームを使って、World Cleanup Day の重要性を人々に啓蒙を図り、ごみ、

特にプラスチックの不法投棄の問題に取り組んでいます。これにより私たちの地域全体で重要な方策を語る話し合いやアクションが活気づけられました。

私たちのコアになる信念は、みんな正しい行動をしたいと望んでいるのだという考えです。彼らに必要なのは、ちょっとした励みや動機だけです。Let's Do It World ムーブメントがさらに何百万人もの人々を活性化し、地域コミュニティ内でのクリーンアップ活動に参加することができたらどうなるかを考えてみてください。





Leo Lin,  
レオ・リン

アジア地域担当ディレクター

2023年の経済不況と高金利という懸念材料があったにもかかわらず、アジアの World Cleanup Day (WCD) コミュニティの熱意は依然として強いものでした。その WCD アジアファミリーの回復力は、大量のごみを収集し、若い WCD ボランティアの意欲を高める斬新な環境教育を実施したインドネシアやラオス、台湾のチームの目覚ましい成果をみても明らかです。

WCD2023では、インドネシアチームはボランティアの総数を260万人に伸ばし、クリーンアップ活動で3,000トン以上のごみを収集し、成果を上げました。私たちのラオスチームは、1人当たりのゴミ回収数が最も多く、台湾チームは若い WCD ボランティアの意欲を高めるために、環境教育を刷新しました。これらは、2022年のバーチャルリーダーアカデミーと ReLeaf シリーズのスピーチで奮起したアジア WCD ファミリーのおかげです。

2023年の成功は、いくつかの重要な要因に起因すると考えられます。まず、不必要な課題を避けるために事前に計画を立てました。私は、アジアコーディネーターのアグスティナ・イスカングル氏と緊密に協力して、アジア初の対面でのリーダーアカデミーを開催しました。これは、各国のリーダーと関係者の関心を高める

ための最も重要なイベントでした。私たちは、2023年の第1四半期に皆様のフィードバックとニーズに耳を傾け、国立台湾大学 (NTU) と基督教福音宣教会 (CGM) からリソースを調達して、インドネシアとシンガポールの LDI チームによるリーダーアカデミーを組織しました。

さらに、WCDリーダーになっていない、政府、企業、NGOが WCDリーダーと交流できるよう招待しました。例えば、インドネシアの副大臣と新北市長との会談は、WCD台湾チームと新北市の関係を橋渡しし、素晴らしい WCD 2023 を開催することに繋がりました。

最後に、2023年 アジア太平洋 WCD カンファレンスの成功に刺激を受け、WCDアジアオフィスを設立しました。アグスティナ氏がこのアイデアを提案し、私たちはカンファレンスで肯定的なフィードバックをくれた関係者、例えば KPMG や CGM のアジア太平洋環境社会・ガバナンス責任者からの支援を得ました。

**結論として、私たちは2023年の成果を誇りに思い、WCDアジアを通じて母なる地球を守る取り組みを続けることに喜びを感じています。**



Alejandra Rivera Santos,  
アレハンドラ・リベラ・サントス

ラテンアメリカ地域担当ディレクター

2023年は、新型コロナウイルス感染症の影響で失われたリズムを取り戻す年でした。疑いなく、それはラテンアメリカ地域も世界全体も変わってしまったことを意味しています。

このような状況を受け入れつつも、組織として適応する方法を知ることが大切です。個々の環境や社会的環境の重要性を認識し、環境責任と共同体の協力を常に考えていきましょう。これによって、私たちが生まれてからずっと過ごしてきた環境を守ることができます。

共通の目的をもって取りまとめられ、組織化したコミュニティの

理想を分かち合い、それを創り上げようと励ましてくれた Let's Do It World に感謝します。このおかげで私たちはさまざまな国で、気づきから始まり行動に至るまで、多面的な環境責任に向けて前進することができました。

政治的、経済的、技術的側面から、私たち人類が議論し、克服しなければならない課題が数多くあるため、その道はまだ遠いです。しかし、Let's Do It World の活動との連携を通して、個々の人から彼らが住んでいる社会、そしてその周囲には、学び、波紋を広げていく余地はあります。



## Holger Holland, ホルガー・ホランド

ヨーロッパ地域担当ディレクター

2023年は、ヨーロッパにおいて集合的な環境活動にとって大きな進歩と協力が見られた、極めて重要な年となりました。EUグリーンディールと気候変動協定に向けての欧州連合の取り組みは、大陸全体、特に Let's Do It ムーブメントにおいて活性化させました。このムーブメントは、プラスチックごみの差し迫った問題だけでなく、広範囲の環境課題に対処するために、さまざまな分野を団結させるのに役立ってきました。

キーとなる取り組みは、前向きな変化を推進する上で重要な役割を果たしてきています。たとえば、World Cleanup Day や Digital Cleanup Day は、広い範囲で参加者が増え認識が広まりました。ドイツで始まり、ヨーロッパ全土に広まるよう作られた Waste Primer のパイロットは、知識のギャップを埋め、より環境に配慮した社会を促進するために必要な教育プログラムの良い手本となっています。これらの取り組みは、情報に基づいた意思決定と効果的な戦略を得るために重要な高品質データによって支えられています。

市民社会と富士通ヨーロッパのような企業との協力による「Planet and Pixels」パイロットプロジェクトは、成人への環境管理教育の重要性、特に無駄なデータを注視しています。これらの環境キャンペーンの認知度と影響力を高めるには、欧州議会

議長のリベルタ・メッツォラ氏などの欧州の政治指導者に関わってもらうことが不可欠でした。ブリュッセルで開始されたWorld Cleanup Day のキャンペーンへの彼女の参加は、環境問題に取り組む際の市民社会と政治団体との重要な連携を象徴しています。

Let's Do It World ムーブメントは、包括的な政治的立場を EU 議会に提示し、環境法の厳格化、地球規模の持続可能性教育の強化、循環経済への支援、プラスチック消費の大幅な削減、プラスチックごみに対する企業の説明責任、およびプラスチック危機に対処するための世界的な法的枠組みの確立を提唱しています。これらの見解は、環境課題に対する総合的なアプローチを反映しており、ヨーロッパから始まり世界に広がる持続可能な未来の創造を目指しています。

市民社会、文化分野、政治家や企業が協力すれば、現代の重大な環境問題に対処できるという確信は、単なる希望にとどまらず、行動を呼び起こすものです。協力することで、ヨーロッパと世界をよりクリーンで健康的でごみのない環境に変え、地球の再生力としての人類の役割を再定義する機会が生まれます。**この集団的な取り組みは、Let's do it – together! (一緒にやってやろう!)** という言葉の精神を具体化しているものです。



## Nima Zare, ニマ・ザレ

西アジア地域担当ディレクター

私たちが Let's Do It World で行っているような、世界レベルでボランティアプロジェクトを実施したり、大規模な社会イベントを組織したりすることは、今日世界中で見られる政治的、経済的、社会的な複雑さのため、常に困難を極めています。

しかし、増え続ける環境問題に対して常に謙虚で志あるボランティア同士の強力な国際ネットワークがあるとき、それは刺激的で楽しいものになり得ます。私たち Let's Do It World の NGO

は、この貴重なネットワークを持つことができ幸せだと感じています。私たちの愛すべき地球規模のファミリーは、環境に対する人類が侵してきた足跡を減らし、社会に持続可能な変化をもたらすという目標に向けて私たちを導く、唯一無二の原動力となっています。

西アジア諸国にも情熱的なリーダーとボランティアからなる優れたチームがあり、私たちは年間を通して、特に WCD 2023 の



期間中、人々がこの地域の環境問題に対処するための行動を起こし、ムーブメントに参加するよう呼びかける多大な努力を見てきました。この地域の国々のすべてのチームメンバー、ボランティア、そして責任ある国民が、自分たちの前向きな努力、能力、知識を他の人々と共有していることはありがたいことです。そしてまた、彼らの地域社会をより良く、より安全に暮らせる場所にしようという取り組みにも大いに感謝の意を表します。

2023年末、西アジア地域では重要な国際イベントCOP28がドバイで開催されました。それはLDIWコミュニティにとってエキサイティングなニュースとともに終了しました。多大な努力の末、World Cleanup Dayが国際国連デーとして認められ、国連のカレンダーに正式に追加されました。西アジア地域のチームリーダーを代表して、この素晴らしい成果に対して世界中のLDIWファミリー全員にお祝いの意を表したいと思います。

2024年の計画では、できるだけ多くの環境活動家を集めることと、まだチームが存在しない国で新しいリーダーを発掘して地域内のネットワークを拡大することが主な焦点となります。

次のステップとして、私たちはアイデアを交換し、共同プロジェクトを実施する可能性を探りながら既存のチームに力を与えることを目指します。これは今後も私たちの主な目標であり続けるでしょう。

さらに、私たちは西アジアで初めてとなる対面での集会の可能性を模索します。私たちは、地域イベントが人脈拡大、知識の共有、ブレインストーミングのために有益な機会を提供すれば、地域内のすべての国の間でより効率的なコラボレーションが実現すると信じています。

一人旅だったら挫折にも繋がりがかねない長旅であることは誰もが承知しています。しかし、力を合わせて共に歩むことで、私たちは遠くまで進み、素晴らしい物語を生み出すことができます。

**「諦めさえしなければ実現できない夢はない!」**ということを常に忘れないでください。



**Pål Mårtensson,**  
**パル・マルテンソン**  
オセアニア地域担当ディレクター

オセアニアは、非常によく知られた場所だけでなく、知られていない、または忘れ去られている場所も多く含む広大な地域であり、オーストラリア、ニュージーランドをはじめとする数万の島々が存在します。また、世界で最も貧しい地域の一つでもあり、世界最高レベルの福祉を受けています。

周辺地域の何十億人もの世界最大の環境汚染者が全てのごみを、強い海流と特定の期間に最も頻繁に吹く卓越風にのせてオセアニアに運び込んでいます。東からはアメリカ大陸があり、太平洋の汚染の一因を作っています。私たちは皆、太平洋ゴミベルトや無数の環流、ごみの浮遊島などについて耳にしたことがあるでしょう。

この地域の人々はクリーンアップの方法を知っています。なぜなら彼らは海岸線で毎日ごみを目にし、腐敗臭がするので、たとえ自

分たちが捨てたものでなくても、それを処分しているのです。ここでは海洋ごみが深刻な問題となっています。海や沿岸の野生動物を傷つけたり殺したり、生息地を損傷させ、地元の漁業や海事産業に経済的損失を与え、沿岸地域の生活の質を低下させたりする可能性があるからです。さらに人間の健康と安全をも脅かします。

Let's Do It World は、この地区の多くの国と地域で活動しています。私たちはさまざまなプログラムに協力し、できる限りサポートし、支援していますが、非常に素晴らしいスマートな解決策を備えた、小さな島々の地元の取り組みに勝るものはありません。固体廃棄物、化学廃棄物、有害ごみの規制を管理する重要な政策手段である**キリバス廃棄物管理資源回収戦略**(KWMRRS 2020.2030) がその代表的な例です。

私たちの地域のプラスチックごみは、非常に長い年月オセアニア全土に浮遊し続けるため、汚染物質として特に解決し難い問題になっています。しかし、人間、動物、自然そのものに大きな問題を引き起こすごみは他にもたくさんあります。

オセアニアの人々の生活を脅かす5つの主要な環境問題があります。

- ・ 海岸侵食と海面上昇
- ・ 健康的な食品と水の供給
- ・ 異常気象現象
- ・ 海洋採掘と掘削
- ・ 不均衡な気候資金

私たちの地域における廃棄物汚染の課題は、これら5つの問題の「原因と結果」の両方で、問題の一因となるものもあれば、問題に直接影響を与えるものもあります。したがって、毎年World Cleanup Dayに参加することにより、世界的な不法投棄の危機を真剣に受け止め、解決策の一員として貢献することになります。

**オセアニアでは誰もがいつでも、喜んで自分の役割を果たします。**



**Rein-Eerik Savi,**  
**レイン=エーリック・サヴィ**  
NGO Let's Do It World CED

この組織の一員となり、サステナブルな活動に参加し、変化をもたらす行動を起こし、ムーブメントに関わる素晴らしい人々に出会う機会があったことをうれしく思います。

戦争、さまざまな紛争、不況、自然災害など、私たちの周りに起きているものについてここで書きたいわけではありません。私はここで、本部チームとこの組織の人々が目標を達成するために必死に行っている作業や息を呑むような献身について書くつもりはありません。また、困難なことや金銭的、あるいは私たちが生きていくために日々対処しなければならないさまざまな話題について書きたくはありません。

では、私は何について書こうとしているのか？人として！

人間としての基本的価値感は何でしょうか、何が私たちを人間たらしめているのでしょうか？どうすればより良い人間になれるのでしょうか？ここではこれらの質問に対する答えを見つけることはできませんが、いくつかの基本的な価値観を伝える方法は知っています。

人間であることの価値観に大きく関係するさまざまな事柄について教え、意識を高め、議論することは、私たちの組織を通じて行うことができるでしょう。

組織は、人々の本質的な価値を形成し、思想世界を創造し、意識

を高める主体となるべき時が来ています。人々がそのことを認識すればするほど、より正しい決定を下すことができ、私たちの集団の未来はより希望に満ちたものになるでしょう。

宗教や文化の違い、また政治的野心、それらすべてが脇に置かれる日が年に1日あることを認識することも良いことです。世界中の人々が共通の目標に向かって協力する1日。

それは可能です、私たちは実行します。毎年！そして、そのためには、設定された目標を達成するべくより多くの人々を巻き込むように努めなければなりません。

私たちはなぜそれを行うのかという目標を持ち続けています。私たちは何かをするために何かをしているのではなく、それを信じているからやっているのです。そして、私たちがまだ成し遂げていないもっと大きな目標があります。

最後に、国連カレンダーに登録された World Cleanup Day! という大きな節目を迎えられたことを皆さんに祝い、感謝したいと思います。逆境をものともせず成功を収めたという非常に有名な言葉で言い換えれば、これは組織にとって確かに大きな一歩ですが、人類にとってはさらに大きな飛躍であることは間違いありません。でも、私たちはまだ旅の始まりにすぎないように感じます。

**この旅が成功しますように！**





## Let's Do It World アンバサダー

Let's Do It World は  
アンバサダーと後援者の皆さんに  
誇りを持って敬意を表し、  
感謝いたします。

彼らが献身的に支えてくれていることは、私たちの組織の大きな使命を支える原動力となっています。これらの優れた人たちは、積極的な改革へのメッセージを世界中に広め、私たちの共通の夢を実現させる上で重要な役割を果たしています。

**アンバサダーと後援者**の皆さんは、年間を通してさまざまな方法で World Cleanup Day 2023 のキャンペーンのために力を尽くしてくれました。

1月には、WCDアンバサダーのエリナ・ネチャエワ氏が私たちの年次カンファレンスを祝ってくれました。彼女の歌の才能を見事に発揮して、タリンで行われたカンファレンスの授賞式で各大陸をテーマにした5曲を発表し、最近のシングル曲「Planet B」のライブパフォーマンスで締めくくりました。エリナ氏はこの曲の収益の50%を寄付するだけでなく、エストニアのテレビ番組のコンテストで得た賞金もLDIWに寄付しました。

6月6日、ロベルタ・メツォラ欧州議会議長とともに、ブリュッセルで開催された欧州議会で World Cleanup Day 2023 のキャンペーンを開始しました。さらに、9月16日にニューヨークのエストニアハウスから行われた World Cleanup Day の生放送中に流した録音 **メッセージ** の中で、メツォラ氏は次のように述べました。「今日の議論を実現してくれたこのキャンペーンの主催者に感謝いたします。廃棄物関連問題に取り組むあなた方のリーダーシップと献身は称賛に値します。あなた方の共同作業はまさに私たちが必要としているものです。より多くの人が情報を得ることができれば、社会が直面している環境問題に積極的に取り組むことができるようになります。」

9月16日のWCD本番では、バングラデシュ出身で現在ニューヨークに住んでいる11歳のファーティハ・アーヤトさんがユース大使として出演しました。彼女は私たちのスタジオに参加し、どうして

環境問題の提唱者になったのか話しました。彼女は、「私にとってWCDは重要です。なぜなら、すべての人々が団結し、大きな影響を与える1つの世界的な運動に参加するからです。」と強調しました。

5度の世界記録更新を果たした水泳選手であり、WCDアンバサダーでもあるメルル・リーヴァンド氏もニューヨークを訪れ、World Cleanup Day を応援するためにスタジオに来て、海洋プラスチック汚染に対処する必要性についての感動的なメッセージを伝えました。その前日、彼女はロッカウェイ・ビーチで自覚を促すためのスイミングイベントを実施したところ、自発的にビーチのクリーンアップが始まりました。メルル氏のやる気を起こさせるインタビューを [ここ](#) でご覧ください。私たちは12月のCOP28中でもメルル・リーバンド氏に会い、再びライブインタビューを行いました。彼女は海洋汚染に関するメッセージをさらに強調しました。そのインタビューは [ここ](#) で見ることができます。

私たちの新しいWCDアンバサダー、ヨハン・ウルブ氏がニューヨークのライブ放送に出演し、イビサ島（スペイン）の自宅から、外の世界に向けた World Cleanup Day と、私たちが内面でできるクリーンアップ活動とのアライメントについて話しました。ヨハン氏自身のコーチングでは、周囲の環境は私たち自身の内面的認識を反映しているという視点に取り組んで実践しています。彼は自身の内面浄化の哲学をライブ放送で発表し、私たちの体は常に現在にあるが、心はしばしば別の場所にあり、元の状態に戻るのに数分しかかからないことを思い出させてくれました。ヨハン氏の心安らぐ啓発的なインタビューを [ここ](#) で体験してください。





## Let's Do It 後援者



**Ursula von der Leyen**  
ウルズラ・フォン・デア・ライエン：  
欧州委員会委員長

「World Cleanup Day の後援者であることをとても誇りに思います。私たちは地球の扱い方を変え、地球の資源にもっと気を配り、生物の多様性を保全する必要があります。誰でも全ての人がこれに貢献できます。」



**Roberta Metsola**  
ロベルタ・メツォラ：  
欧州議会議長

「汚染、ごみ処理、資源の持続可能性はすべて、欧州議会が真剣に受け止めている懸念事項です。だからこそ、環境に優しい目標を追求し続けるために、World Cleanup Day のようなムーブメントが非常に重要なのです。ごみ関連問題に取り組むリーダーシップと献身さは称賛に値します。」



## Let's Do It アンバサダー



**Faatiha Aayat**  
ファーティハ・アーヤト：  
World Cleanup Day ユースアンバサダー

ファーティハ・アーヤトさんは12歳で、バングラデシュ出身ですが、現在は米国のニューヨークに住んでいます。彼女は World Cleanup Day のユースアンバサダーであると同時に、子供の権利活動家であり気候変動運動家でもあり、地球温暖化、気候変動、炭素排出、化石燃料などに対して定期的に声を上げています。

さらにハーバード大学継続教育学部の「リーダーになること」に関する専門能力開発プログラムを受講し、小学校の卒業式でも「優れた学業に対する大統領賞・金賞」を受賞しました。

ファーティハさんは「CHILandD」という自身の組織で気候、健康、情報、学習、開発の問題に取り組んでいます。彼女は国連環境計画が主催する「マイゴール・より良い未来のために」でチャンピオンになりました。火星探査車パーサヴィアランスや小型のロボットヘリコプターインジェニュイティのプロトタイプ（原型）はNASAのジェット推進研究所での展示にノミネートされました。

また、アドベナ・世界アートコンペティションの「脅威にさらされている海」部門でアメージングアーティスト賞を受賞しています。



**Christine Figgene**  
**クリスティン・フィグナー:**  
World Cleanup Day アンバサダー

クリスティン・フィグナー氏はドイツの海洋保護生物学者、作家、科学コミュニケーター、海洋アドボケートであり、ウミガメの保護とプラスチック汚染との闘いの活動で知られています。

「ウミガメの生物学者として、私は15年以上にわたってプラスチック汚染が海洋生物に与える痛みや苦しみを目の当たりにしてきました。すでに絶滅の危機に瀕しているウミガメは、プラスチックを摂取し、プラスチックのためにヒレ足や体の一部を失い、その結果、ゆっくりと痛みを伴う死を遂げることがよくあります。

ウミガメが直面する脅威はこれだけではありません。消費中心の経済から生じる、私たち人間の便利さを優先したライフスタイル、そして個々の人々の行動から生じている脅威なのです。プラスチック汚染の危機は世界的な問題です。多くの場

合、一人では解決できず、集団でなければ解決できない圧倒されそうなほど大きな問題です。

当然のことながら、World Cleanup Dayのアンバサダーに任命され、人々を結集し、自らの役割を果たすよう鼓舞する世界的な取り組みに携わることができたのは大変名誉なことです。また、World Cleanup Dayに参加し、すでに起こってしまっている被害を修復し、WCDの日だけでなくその後もプラスチックのないライフスタイルと意識ある消費ロールモデルとなることは大変光栄です。」



**Kristjan Järvi**  
**クリスチャン・ヤルヴィ:**  
World Cleanup Day アンバサダー

クリスチャン・ヤルヴィは、エストニア/アメリカの著名な指揮者、プロデューサー、作曲家、編曲家です。

「Let's Do It Worldは、意義を生み出し、人類を次のレベルへと引き上げる機会を与えてくれる必要不可欠なものです。Let's Do It Worldの環境活動には、個人、地域、世界、すべてのレベルが関係しています！

自分自身や環境に対して責任を持つことで、私たちは新し

い現実を作り上げることができます。何をすべきで、何をすべきでないかの決断に向けての人類の姿勢は、確固たるものとなりました。エストニアから世界へと発展したこの運動は、エストニア人の考え方の大きさ、自然との関わり方や自然そのものを雄弁に語るものです。」





**Merle Liivand**  
**メルル・リーヴァンド:**  
World Cleanup Day アンバサダー

メルル・リーヴァンドはエストニア・タリン出身の競泳選手、モデル、アクアプレー、SWIMERA CEO、AMBASSADOR、トライアスロン選手、国際広報担当、オープンウォータースイマー。彼女は主に、現代の生きる人魚と氷の女王として知られており、水の世界に対する情熱と人生の探求をし続けています。

彼女は、海洋に関する法律を変えました。また世界経済フォーラムは彼女を気候変動と海洋汚染に関するフロントボイスに任命しました。マイアミビーチの市長は、彼女の誕生日である4月17日を「メルル・リーヴァンドの日」と命名したほどです。

彼女は4つのギネス世界記録を持ち、アスリートとして、また海洋アンバサダーとして、その道を歩み続けています。昨年はハリウッドのショートフィルム賞を受賞し、グローバルインフルエンサーに選ばれました。

彼女の最大の夢は、PLASTDEMIA（彼女自身の造語で、プラスチック感染症）の汚染から解放され、地球上のすべての面がきれいになるのを見ることです。



**Elina Nechayeva**  
**エリナ・ネチャエフ:**  
World Cleanup Day アンバサダー

エストニア出身のソプラノ歌手、エリナ・ネチャエフは、オペラ界の新星として、世界中のコンサートや劇場のステージで活躍しています。エリナは、重力の影響を受けない自由な歌声を持ち、そのカリスマ性は、クラシックの愛好家だけでなくポップミュージックのファンも魅了しています。

エリナはエストニア代表としてユーロビジョンで「ラ・フォルツァ」を披露しました。2022年に、地球の未来に対する痛切な思いを表現した新曲「Planet B」をリリース。

この星を壊してしまったら、空の彼方にもうひとつの故郷、第2の星はないのだと、彼女は音楽を通して語ります。地球は1つしかないのです！私たちの美しい緑の地球を、そしてお互いを大切にしましょう。私たちは1つです！

エリナはこの曲の収入の半分を World Cleanup Day の成功のために寄付しています。





**Johann Urb**  
**ヨハン・ウルブ:**  
World Cleanup Day アンバサダー

ヨハン・ウルブ氏は、エストニア系アメリカ人の俳優、プロデューサー、エネルギーを熟知していることで名高い自己啓発コーチであり、ピラミッド・ブレス・メソッドの創始者です。

ヨハン氏は人々が自分自身を受け入れ、自己探求の旅に導かれるよう支援し、その過程で彼らの全ての側面を包括するよう尽力しています。彼は深い洞察力で、目的あるバランスの取れた人生を追い求めている人々奮起させ、勇気づけます。

「経験を共にすることによってコミュニティが成長するのは自然のこと。人々を団結させれば大きくなり親密さが増します。私は人々と一緒に内面からのクリーンアップを行っており、World Cleanup Dayは外の環境に取り組むことを奨励しているので、ぴったりフィット。私たちは内面からクリーンアップし、外もクリーンアップします！私たちは一緒に協力することでより良い結果を得ることができます。内面と外面は同じであり、上と下も同じです。ど

ちらも相互に影響し合うことで共通の価値観が純粋に一致することを表しています。

皆さんも目を開いて目の前の世界を見てほしいと思います。力強い行動、創造的な瞑想、それらすべてとの真のつながりを感じながら。本当の一体感、それこそ私がWorld Cleanup Dayにもたらしたいものです。」



## ミッション・ビジョン・ヴァリュー

Let's Do It World (LDIW) においては、不可欠な変革の引き金となる集団による活動や前向きなパートナーシップの力の中に私たちの確固たる信念があると思います。

ごみのない世界を取り戻すには、社会全体の団結した努力が必要です。

私たちはすべての協働活動に楽観的かつ信念を持って、背景に関わらず本質的な解決策に貢献したいと考えている人々を招き入れています。





## ミッション

LDIWは、何百万人も建設的な考えを持つ人々を、地域やグローバル規模の活動に参加してもらって、ごみ問題に取り組む世界的な組織です。

LDIWの主な目的は、不法投棄されたごみが自然や人間の居住環境や人々の健康に与える影響についての意識を高めることです。私たちは中心となる人々や意思決定者と協力して、循環経済をサポートし、ごみを削減する解決策を特定し、実施します。

私たちのグローバルネットワークは、個人、コミュニティ、企業、組織、政府を結び付け、今日私たち全員が直面している地球三大危機（気候変動、汚染、生物多様性の損失）の一因となるごみ問題に取り組んでいます。

## ビジョン

ごみのない、クリーンで健康的な世界。

LDIWは、世界で一斉に行われるプロジェクトやイベントを通して、地域レベルでの環境活動を奨励し、グローバルに持続可能な影響をもたらすことを促しています。この運動は、行動変化が自然に起こる転換点として社会科学的に言われている世界人口の5%を巻き込むことで、ごみのない世界の実現を目指しています。

「私たちはクリーンアップ活動の重要性と関連性を認識していますが、私たちは単なる清掃団体ではなく、意識を高め、地球三大危機に対処する解決策を提供する団体です。ごみと汚染はその危機に大きく寄与しています。」

- ヘイディ・ソルバ  
LDIW代表 兼 グローバルネットワーク長

## ヴァリュー

LDIWムーブメントは、3つの核となる価値観に含まれる原則を注視しています。

### 協力

力を合わせばグローバルな課題に取り組めます。

私たちは、自然界にごみがあってはならないという信念を共有する公有地や企業、非営利組織や個人の団体をすべて呼び込みます。ことわざにあるように、「速く行きたければ、一人で行きなさい。遠くに行きたければ一緒に行きましょう。」

### ポジティブ

私たちは非難するのではなく行動を起こします。

私たちのアプローチは、責任をなすりつけるのではなく、解決策を探すことを中心に展開しています。私たちは、建設的な変革を促進し、革新的な解決策を通じて「ごみへの無関心」問題に対処することに重点を置いています。

### 人々

変革は人の中に、そして人を通して起こります。

変革は個々の心の内側から起こります。そしてそれは人それぞれです。リーダーシップは選ばれた少数の人に限定されるものではありません。それは誰でも培うことができる能力です。

私たちは、地域の取り組みやグローバルな協力から、ごみのない地球を作り上げることに専念してくれる若いリーダー集団を育成することに力点を置いています。



## 沿革

Let's Do It World (LDIW) は、  
世界最大の市民活動ムーブメント  
であり、世界的な間違ったごみ処理に  
対する認識を高め、解決策を提供する  
ことを使命としています。

地球上のほぼすべての国で活動するチームと共に活動している私たちのネットワークは、毎年恒例の World Cleanup Day (WCD) と Digital Cleanup Day (DCD) というメインイベントを通じて数千万人の人々を結び付けています。小さな草の根の運動から世界的な現象にまで広がった2つのキャンペーンです。

LDIWは、「一緒にやろう!」を意味する「Teeme Ära」という名称のもと、エストニアで始まりました。2008年5月3日、5万人以上の人がわずか5時間でエストニアをクリーンアップし、不法投棄されたごみが10,000トンという驚異的な量に達しました。それ以来、多くの国がエストニアの例に倣い、ごみのない世界を目指す運動に参加しました。

The Let's Do It Foundation は、国際的なクリーンアッププロジェクトを調整するために2011年に設立されました。2012年には、「World Cleanup 2012」と称して、数カ月をわたって96の国と地域で一連のクリーンアップ活動が行われ、スロベニアでは人口の14%が社会参加を果たし、現在も記録として残っています。

2014年、あらたに大胆な目標が設定されました。数カ月をわたったクリーンアップ活動から、世界人口の5%を目標とし、活動を1日に凝縮した組織的なキャンペーンに移行することになりました。この目標は、150か国以上のリーダーがいる専任のWCDチ

ームで構成される、史上最大の環境ネットワークが出来上がりつつありました。

史上初めて、世界中で同時に行動を起こすように組織された、1日で行われるクリーンアップです。2018年9月15日に開催され、その日は157の国と地域から1,800万人の参加者がフィジーから米領サモアまで広がるグリーンウェーブの中でごみ収集に参加しました。エストニアのタリン大学で、28時間のライブTV配信で世界中の視聴者にイベントを放送しました。

2019年に、LDIWネットワーク全体のリーダーやボランティアを代表し、調整する NGO Let's Do It World が設立されました。WCDは、180の国と地域からの記録的な2,100万人の参加者を団結させました。

2020年、初の世界的なDCD (デジタルクリーンアップデー) が4月22日のアースデイに開催され、デジタルごみによる環境への影響の拡大が強く取り上げられました。WCD2020には、新型コロナウイルス感染パンデミックにもかかわらず、166の国と地域から約900万人が集まりました。

2021年、LDIW 年次カンファレンスが初めてオンラインで開催され、世界中から2,500名を超える参加者が集まりました。新型コロナウイルス感染症が再び流行した年であっても、191もの驚くべき国と地域から、約900万人がWCDに参加しました。

2022年にはパンデミックの制限がなくなり、参加者数はコロナ以前に近づき、5%のインパクトにより、その後続く社会的影響を生み出す方向に戻りました。その年のWCDには、190の国と地域から1,500万人弱の人々が集まりました。

2023年、WCDはUNSDGモビライズ賞を受賞し、国連カレンダーに追加されました。1,910万人の参加者があり、国連加盟国の90%を含む198の国と地域が参加し、過去最高を更新しました。年間新記録となる合計218,704トンの不法投棄ごみが環境から除去されました。



2008年エストニア

- 2008年 ○ エストニアで5万人による初のクリーンアップ行動を実施
- 2009 - 2011年 ○ エストニアに倣って多くの国でクリーンアップ活動を実施
- 2011年 8月4日 ● 国際的なクリーンアッププロジェクトを調整するため、Let's Do It 財団を設立
- 2012年 ● 5ヶ月にわたり世界96カ国で一連のクリーンアップ活動「WORLD CLEANUP 2012」を開催
- 2014年 ● クリーンアップモデルを1日変更 世界人口5%に目標を定める
- 2018年 9月15日 ○ 第1回「WORLD CLEANUP DAY」を157カ国で開催1800万人参加
- 2019年 2月26日 ● WCDと権利擁護を主導するために「NGO Let's Do It World」を設立
- 2019年 9月21日 ● WCDを180カ国で開催 2100万人参加
- 2020年 9月19日 ○ 新型コロナウイルス感染パンデミックの中、166カ国でWCD開催
- 2021年 9月18日 ● パンデミック2年目も 191カ国でWCD開催
- 2022年 9月17日 ○ WCD190カ国から1500万人参加
- 2023年 9月16日 ● WCD198カ国から1900万人参加、国連国際デーに登録される



World Cleanup Day 2018 中国



## インパクトモデル

Let's Do It Worldの究極のビジョンは、ごみのない世界です。気候変動、生物多様性の減少、資源浪費の危機に取り組むために世界的に必要な変革は複雑なものです。現在の社会の機能には複数の要因と層が深く組み込まれており、様々なところに影響を与えることとなります。LDIWの旗艦プロジェクト、World Cleanup Dayは社会のすべての人が勇気を出して行動を起こせば、長期的に影響を与え続けられるでしょう。

私たちの「変革の理論」では、World Cleanup Dayやその他のLDIW活動が健康でごみのない世界をもたらすことをどれほど切望しているかを説明しています。World Cleanup Dayは、個人、組織、政府が行動を起こす足掛かりとなります。

World Cleanup Dayは、関係者たちがその活動の勢いで組織的变化を生み出した時にのみ長期的なインパクトを与え続けます。個人はサステナブルな生活スタイルをしなければならず、企業は循環型、再生型のビジネスモデルを導入し、政府も循環型、再生型の経済を支援する法律を導入する必要があります。

私たちは、Let's Do It Worldの役割を、人々を魅了し、教育し、必要に迫られている変革の媒体として機能させるものと考えています。だからこそ、私たちは各国の人口の少なくとも5%を参加させることを目指しています。社会に変化をもたらす、持続可能な未来に向けた変革を加速するために必要な転換点なのです。

LDIWの変革の理論は基礎となるガイドとして機能しています。LDIWネットワーク内の各国には、国固有の独自の変革の理論があります。Let's Do It Worldは、世界のほぼすべての国にいる熱心なリーダーたちとそのチームの素晴らしいネットワークです。力を与え、教育するという私たちの役割において、私たちはごみのない世界を作るために必要な社会変革を主導できるよう、世界中の未来のリーダーを教育しています。Let's Do It 運動の

「私たちは、Let's Do It Worldの役割は魅力的で教育的なものであり、切実に必要とされている変革への手段として機能しているものだと思います。」

初期の頃、エストニアは2008年に人口の12%を参加させ、2012年にはスロベニアが14%を参加させました。現在、この2カ国は世界で最も清潔な国となっています。

2018年にWorld Cleanup Dayが始まって以来、6回WCDが開催されました。この間、合計7カ国が5%に達したか、または突破しました。6回中4回突破した国もあります。ラトビアです！世界人口全体では、1.13%に達しています。

2023年の対人口比が9.6%と最も高かった国は、325万人が参加したモザンビークでした。この国は昨年も200万人が参加して6.1%を獲得して注目を集めました。コソボは、2019年に記録されたWCD比率10.95%という記録を保持しています。これは、組織を超えた支援を通じて十分な人数の人々が関わる限り、大小を問わずどの国でも長期的な変革が可能であることを示しています。



World Cleanup Day インド



効果(SDGs)

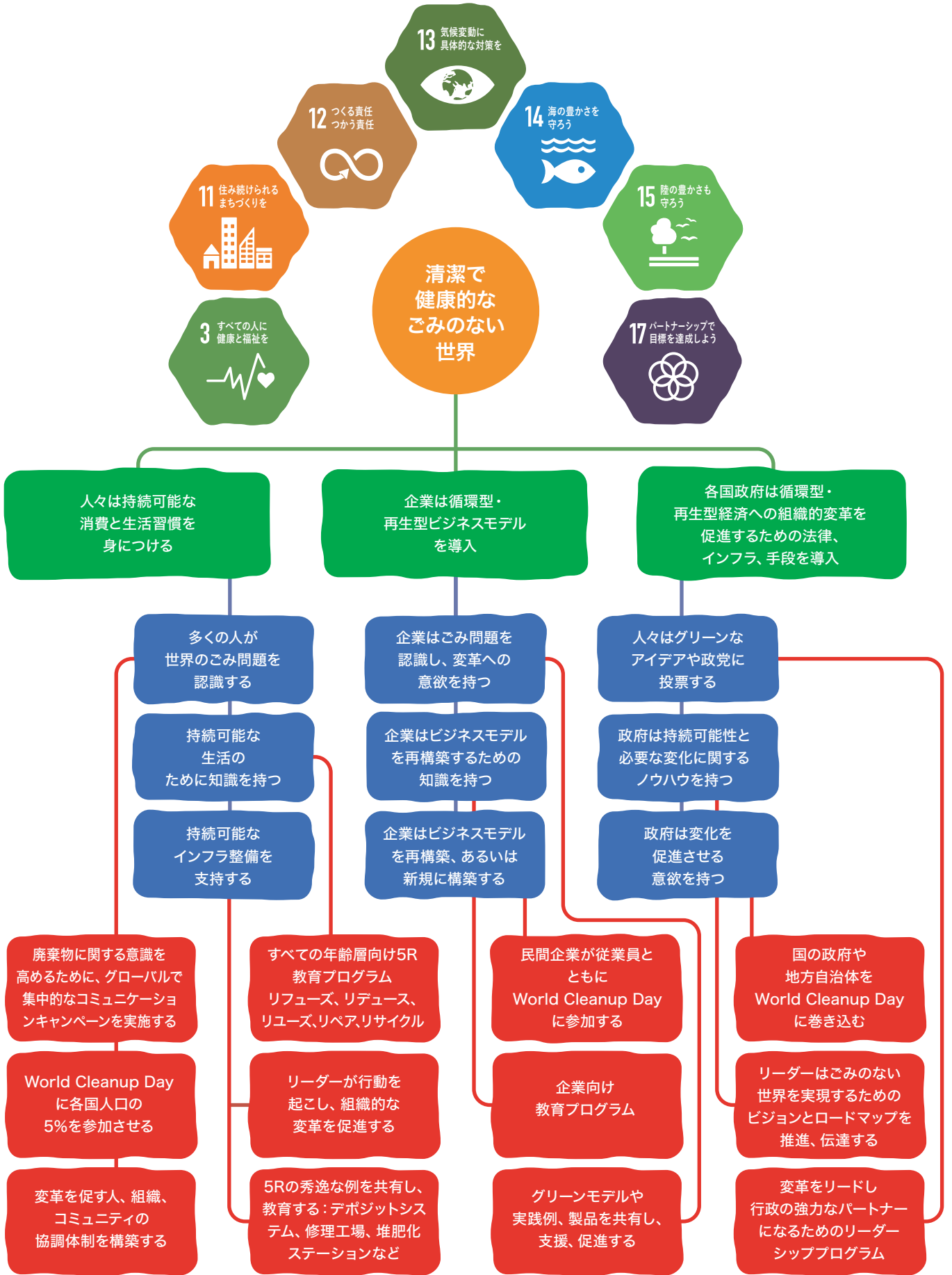
展望

結果

成果

活動

役割



エンゲージ、エデュケーション、エンパワーメント





## ネットワークとメンバーシップ

Let's Do It Worldネットワークのリーダーとそのチームメンバーたちは、体系的な変化を推し進めるアドボケーターに成長しました。これまでの彼らの取り組みから、草の根主義の変革力と一人ひとりが環境分野で影響力のあるリーダーとして活躍していることが読み取れます。

その核心にLDIWネットワークが、共通の目的のために団結する個人やリーダーシップの力となっている証があります。ネットワークの中心には、数えきれない人々が環境を変えるために時間と努力を捧げるボランティア精神があるのです。

ボランティア活動の精神は組織のDNAに組み込まれており、責任を共有するという感覚を生み出し、地球との深いつながりを育んでいます。このボトムアップのアプローチがネットワークの成功の鍵です。これにより、コミュニティは環境問題に主体的に取り組み、Let's Do It!のグローバルファミリーとして結束させています。

LDIWのネットワークは地元の組織に深く根付いていて、他のクリーンアップキャンペーンをはるかに超えて広がる、変化を促進する媒体となっています。これは個人的成長や自己啓発のためのプラットフォームにも進化し、環境保護活動の複雑さを乗り越え

ることができるリーダーを形成してきました。

地域レベルでリーダーシップを育成する取り組みは、組織自体を強くするだけでなく、より広い範囲の環境ガバナンスに役立っています。

リーダーシップを限られた地域から国家レベルに移行させることは、環境維持に向けて総合的なアプローチを確立する上で極めて重要です。

ネットワークの成功は、ごみの収集量だけで測られるものではありません。コミュニティが変革され、リーダーが育成され、持続可能な実践が制度化されたか、それらが基準となります。

Let's Do It World は単にクリーンアップキャンペーンを集めているものではありません。それは集合意識を育み、将来の世代のために地球を守ることに尽力する世界的なコミュニティを育てる運動です。

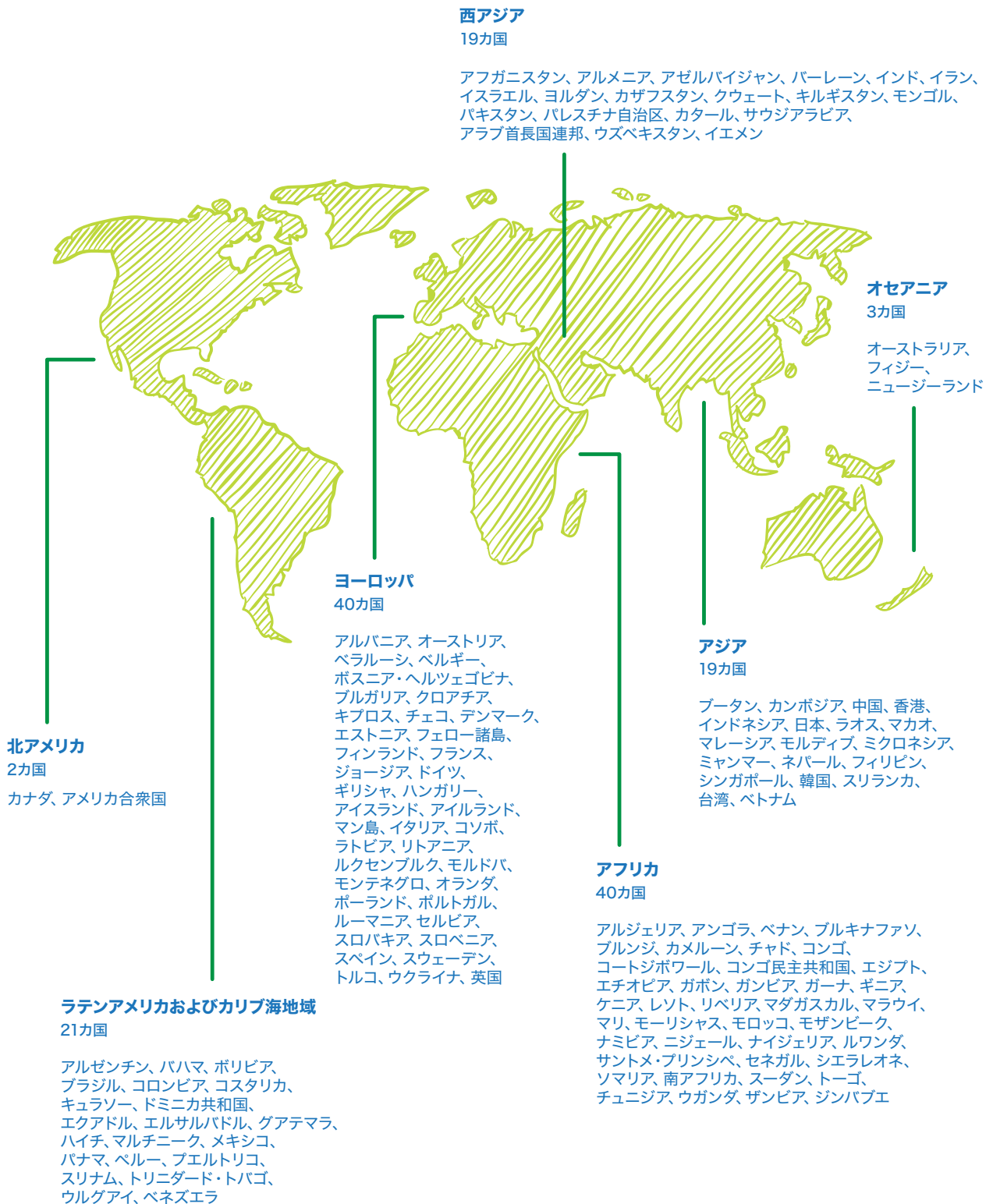
地域レベルの環境リーダーたちのグローバルファミリーを各国の環境団体に影響力を持つ人物に成長させられるLet's Do It Worldの力は、この組織が絶大な影響力を持っていることを如実に表しています。

Let's Do It World は、その活動の過程で、より良い方向への変革と持続可能な発展の精神を体現し、その成功に貢献して下さった個人、リーダー、チーム、アンバサダー、ボランティア、パートナーのすべての皆様に誇りと感謝の念を持ち続けております。





## Let's Do It World ネットワーク









## 受賞歴

Let's Do It World は、  
 献身的なリーダーやチームとともに  
 大きな進歩を遂げ、  
 それぞれのコミュニティ内に建設的な  
 変革をもたらしてきました。

彼らの取り組みは、各国内でも世界的規模でも高く評価されています。

私たちは、受賞した賞の数々をここに紹介し、各チームがその活動を通して与えた成し遂げた意義ある影響の数々を讃えます。

国連 SDG アクション アワードは、国連のSDG活動の代表的なプログラムであり、人々を活動に参加させ、鼓舞し、連携することで活動を前向きに変化させた取り組みや個人を表彰するものです。

2023年には、190カ国から5,000チームを超える参加申込みやノミネーションが寄せられました。そして Let's Do It World は、旗艦キャンペーンである World Cleanup Dayへの取り組みが評価され、栄誉あるモビライズ賞を受賞しました。

過去には、2021年の国連ハビタット名誉スクロール賞の受賞など、世界に広がる Let's Do It World グローバル ネットワークの功績も認められました。

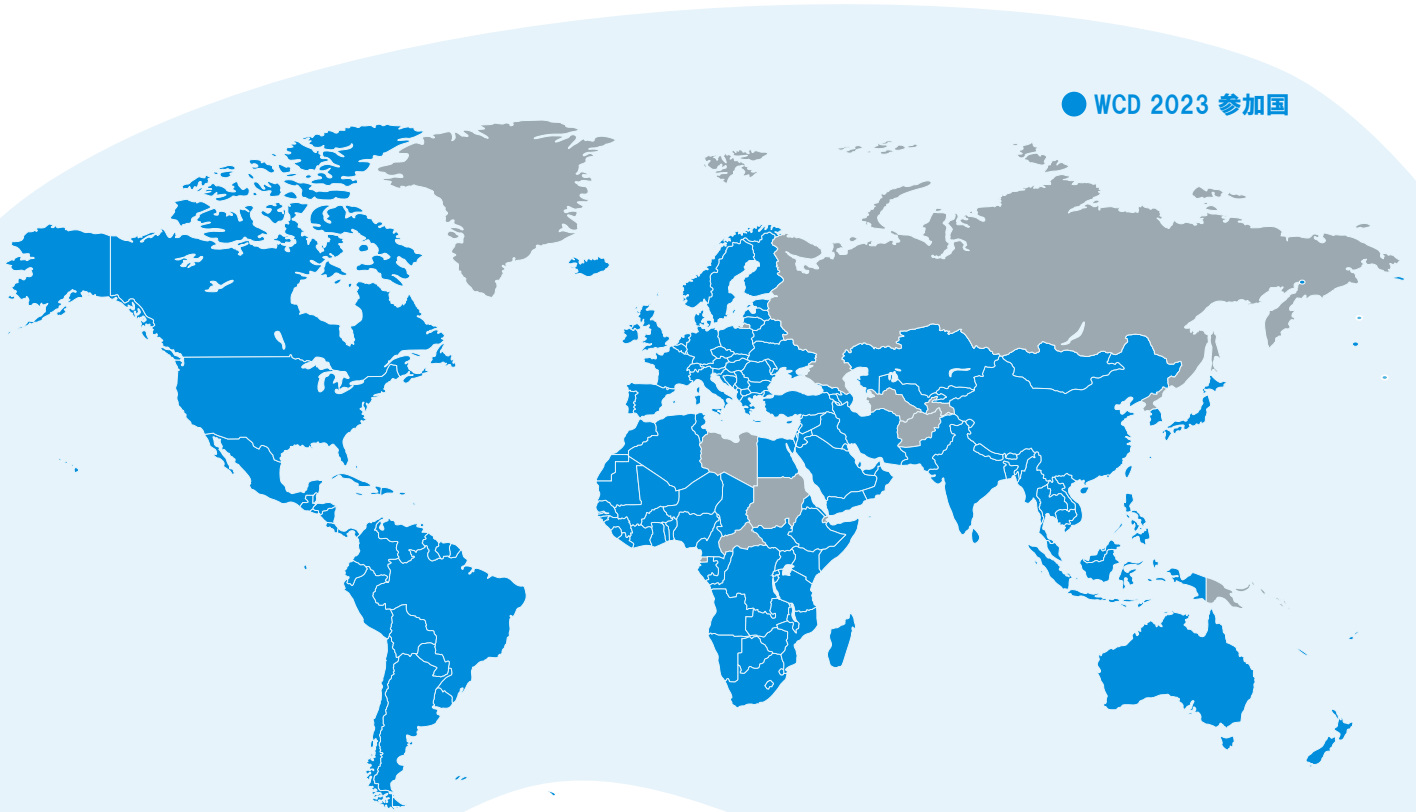
World Cleanup Day は、2019年のエネルギーグローブ賞の最終候補にも選ばれています。

チームがその地域や地元で賞や表彰をいただけたことも大変嬉しく思っています。地球上のすべての生き物のために、よりクリーンな世界を目指してたゆまぬ活動を続けているネットワークのリーダーやボランティアにとって、これは大きな意味を持ちます。





# World Cleanup Day 2023



THANK  
YOU



参加者

1,910万人

198



の  
国と地域

国連  
加盟国の



90%

ごみ回収量

21万9千  
トン



WORLD  
CLEANUP  
DAY 2023  
16 SEP



## 結果概要

今年の結果が物語るように、World Cleanup Day 2023 は記念碑的な成功を収めました。多くの記録を破り、成功に導いた重要な要素が認められ、この一年で国連SDGsモビライズ賞を受賞し、国連国際デーの仲間入りを果たしました。

198の国と地域から 19,068,786 人が参加し、過去最高を記録しました。また国連加盟国の 90% という新たな最高記録にも至りました。WCDとしては過去2番目に高い年間参加者数を記録し、新型コロナウイルス感染症以前の参加レベルに戻りました。

今年はいくつかの記録が更新されました。中でも、36カ国が各国の参加レベルを向上させました。モザンビークの参加者325万人はリーダーボードのトップとなり、それまでの60%アップとなりました。

カンボジアとブラジルは、それぞれ約160万人と60万人となり、過去の記録のほぼ2倍にすることに成功しました。ドイツも記録を更新し、前年比ほぼ50%増の43万8,000人に達しました。

エストニアでも今年5万6,000人が参加し、過去最高を記録、初めて2008年のクリーンアップデーの参加者数を上回りました。

さらに、コンゴ民主共和国とバルバドスでは、それぞれ440名と20名という比較的小規模な過去最高記録から、コンゴ民主共和国では16倍を超える7,229名、バルバドスでは60倍以上の1,250名となりました。

しかし、一国の人口に対する動員率としてはどうでしょうか？ 私たちが世界人口の5%を目指していることを考えると、各国レベルでどれほど取り組まれているか、振り返ってみるのも良いでしょう。今年のチャートのトップはモザンビークの9.6%で、僅差でカンボジアの9.3%が続きました。ラトビアは一貫して5%台を突破し、7.7%を記録しました。

持続的な社会行動の変化を創り出し、廃棄物管理全般、特にごみ発生の抑制対策を順調に進めているこれら3カ国に祝意を表します。

データを深く掘り下げてみると、私たちのメッセージである持続的な社会変革の必要性が一般の人々や特に政策立案者の双方に受け入れられ、将来的に良い傾向にあることがわかります。

私たちは皆さんと一緒に、クリーンで健康的で、ごみのない世界を実現する媒体として大きなインパクトを与えています。これらの傾向を見つつ、WCD 2023の大きな成果を得た事例をご紹介します。



## 若者の力

WCD 2023の最も重要かつ目覚ましい傾向は、若者の参加が大幅に増加したことです。モザンビークでは、教育省との協力体制により、1,200以上の学校でごみや汚染に対する意識を授業に組み込むことができました。

その結果は？ 約200万人の子どもたちが参加したため、2023年にはボランティア参加者数は国内の記録を更新し、世界記録となる325万人に達しました。モザンビークの人口の9.6%に相当します。WCD 2019以来、どの国においても最高レベルの数値です。

ナミビアでは予想の2倍のボランティアが集まり、そのうち80%が子供たちでした。フランスは、15万人のボランティアのうち3分の1が子供たちだったと報告しています。バヌアツでも、オリンピック委員会がクリーンアップ活動を企画したこともあり、若者たちも子供たちと一緒に並外れた熱意を示して参加しました。

スリランカもまた、数千の学校への参加を優先し、若い世代に意識を広めることに成功しました。これは、特に今年、世界中で見られたパターンです。



ナミビア

## 強化する各国政府



カンボジア

もう1つの注目すべき傾向は、多くの国でWCD活動への政府の参加が増加していることです。地方自治体から国連代表、各国大統領まで、明らかに政府関係の人たちが私たちのミッションに積極的関心を抱き、私たちが発するメッセージをより深く理解するようになっていることは明らかです。

その結果、私たちの活動は草の根レベルだけではなく、政府内にも浸透してきています。私たちが直面している不法廃棄物の増大に対して、各国リーダーは拘束力のある法案の導入を政府に求めており、政策立案者の関与が必要なことは明らかです。



## 民間企業の認知度向上

大きな注目を集めているのは若者や政府だけではありません。今年は企業への認知度や企業との連携が明らかに高まっています。ソーシャルメディアプラットフォーム、特にLinkedInでは、企業や団体が主催するクリーンアップ活動を讃える投稿で賑わいました。

企業の参入は、参加条件の生命線ともなる3分野（民間・行政・企業）を完成させ、世界的な不法廃棄物への危機管理意識が社会のあらゆる分野で高まっていることを浮き彫りにしています。



## 予想に反して成功する



戦争、紛争、その他の課題の真っ只中であつたにもかかわらず、なんとかクリーンアップを実行した国々に多大な敬意が払われるのは言うまでもありません。ウクライナでは、「空を平和に、ウクライナをきれいにしましょう!」というスローガンの下、28万2千人以上が参加しました。ウクライナで過去2番目に多い合計数です。24の地域でクリーンアップが実行されたことも判明しています。

コンゴ、ハイチ、イラン、レバノン、ソマリア、シリア、イエメンの勇敢なボランティアも、自国の社会的混乱による潜在的な致死的风险に直面しながらも、クリーンアップ活動に参加しました。

## ごみ—地球上の負担を減らす

WCD 2023 のレポートでは、全世界で収集されたごみの総量は実に218,704トンにもなりました。これは前年を上回っており、参加者数も2番目に多い年でもありました。重要なことは、この数字のうち98%はWCDの各国のリーダーの報告から直接得られたもので、「外部」の情報源、つまり指定されたWCDチーム以外の国からのものはわずか2%にすぎません。

今や、私たちはビーチでペットボトルを拾ったり、公園でキャンディーの包み紙を拾ったりするという基本活動をはるかに超え

て活動しています。多くの国で、WCDのイベントでごみ拾いチームに貸し出された機械を使って、膨大なごみの山が撤去されているという事例が増えています。

そのようなごみは、腐敗したり水に浸ったりし、広範囲の土地を汚染します。「きれいにする」唯一の方法は全てをすくい上げることです。この概念は、長年にわたって蓄積してきたごみがある国で集められた膨大な量の廃棄物を語るのに、大いに役立ちます。

## メキシコ — タバコの吸い殻 22 トン

「参加者数vs.ごみ回収量」という尺度で、メキシコ全土で198万人の参加者が、タバコの吸い殻の回収に重点を置いた清掃活動を実施しました。重さ0.2~0.4グラムの吸い殻を、なんと約22トン収集したと報告しています。これは7,260万本の吸い殻に相当します。それもたった1日で！

メキシコの取り組みは目覚ましいですが、これは年間生産される**5兆6,000億本の吸い殻**のうちのわずか0.0013%にしか相当しません。またその75%は下水路を通して自然界に廃棄されてい

るのです。タバコの吸い殻はプラスチックでできており、約150種類の毒素が含まれています。これは生物にとっては致命的です。たった1本の吸い殻で1,000リットルの水を汚染する可能性があります。想像を広げて、世界の川、湖、海、海洋が受けている汚染を考えてみてください。

この重大な汚染問題に意義深いスポットライトを当ててくれたメキシコ、本当にありがとう。





## イエメン – 行われている「重労働」

「参加者数vs.ごみ回収量」という尺度で対極に位置するイエメンは、わずか94人のチームを集め、身近なところから108トンのごみを除去しました。同時に、数百軒の家庭を戸別訪問しての情報提供キャンペーンや、ごみ処理システムの設置、ごみ袋の配布が行われ、収集トラック3台とブルドーザーも配備されました。

国連ハビタットによると、20億人もの人々がごみ収集サービスを利用できていません。そして推定30億人がどこにでもごみを捨てています。これは、毎日100万トンを超えるごみが私たちの健康と環境に影響を与えていることを意味します。海も同じです。

これほどの規模でごみが散乱し、ごみ処理インフラが欠如している地域は、必然的にそれを除去するのに人の手作業ではとても処理できません。

「20億人がごみ収集サービスを利用できず – 推定30億人がどこにでもごみを捨てている」



## Let's Do It World に仲間入りした国々



ツバル

私たちのムーブメントの規模、熱量、影響力が増し続ける中、WCD 2023 には国連加盟国から6カ国が初参加しました。新規参加国の中には、サモア、ツバル、パラオ、キリバスといった太平洋諸国も含まれており、いずれも沿岸地域に対する気候変動の壊滅的な影響について国連レベルで声を上げてきました。

彼らは、大陸諸国の川から海に流れ着き、自国の海岸に打ち上げられた大量のごみに対処するための行動を起こしています。彼らが声をあげることで、私たちのムーブメントは世界的に広がり、連携して新たな地平線を越えていきます。



## 2023年の際立った活動報告

結果の大小を問わずクリーンな未来への道のりの一環としてWCDに参加した全ての国々の成果を祝します。そして、例年通り、2023年のリーダーボードのトップに立った素晴らしいリーダーの皆さんの目覚ましい成果とその努力を認め、ここにご紹介します。

最前線に立ったのはモザンビークです。3つのチャートでトップを記録しました。まず、人口の9.6%に相当する325万人の

献身的なボランティアを動員し、また「動員数の新記録」を達成しました。素晴らしい!

参加人数ではその後にインドネシア、インド、米国、メキシコが続きました。それぞれ261万、246万、235万、198万人が参加しました。これらの感動的な結果は、共通の目的のために団結し、環境のために何かすごいことを行なうエネルギーを蓄えている一人一人の計り知れない力を表しています。

### 上位参加人数

1	モザンビーク	325万	6	カンボジア	157万
2	インドネシア	261万	7	ブラジル	60万
3	インド	246万	8	ドイツ	43.8万
4	アメリカ合衆国	235万	9	イタリア	40万
5	メキシコ	198万	10	フィリピン	38.3万

### 参加者数新記録

1	モザンビーク	325万	6	ドイツ	43.8万
2	インド	246万	7	フィリピン	38.3万
3	アメリカ合衆国	235万	8	スリランカ	10万
4	カンボジア	157万	9	イギリス	8.2万
5	ブラジル	60万	10	エストニア	5.6万

### 上位人口比

1	モザンビーク	9.6%	6	キルギスタン	2.4%
2	カンボジア	9.3%	7	コソボ	2.2%
3	ラトビア	7.7%	8	アンドラ公国	1.9%
4	ブルガリア	4.5%	9	フェロー諸島	1.7%
5	エストニア	4.2%	10	メキシコ	1.5%

## 世界に広がる私たちのインパクト

2018年にWorld Cleanup Dayの取り組みを開始して以来、私たちは大きな進歩を遂げています。2018年から2023年までの6回のWorld Cleanup Dayの間、ボランティアの驚異的なネットワークは、国連加盟国の95%を含む211の国と地域で、不法投棄された543,704トンのごみをクリーンアップしました。その結果、新たに合計9,100万人弱の参加者が参加することになりました。これは世界人口の1.1%を超える数字です。

しかし私たちは止まりません！来年に向けて、私たちはこの数をさらに増やすことを目標としています。マーシャル諸島は、私たちの

来年の参加を求める呼びかけに大いに共感し、ソロモン諸島と共に参加することを約束しました。トルクメニスタンも関心を示しています。

これらの国が参加すると、全ての国連加盟国参加まで残り6カ国となります。赤道ギニア、エリトリア、ナウル、北朝鮮、セントクリストファー・ネイビス、サンマリノ。これらの国に2024年のクリーンアップ活動開催に興味のある友人や家族、連絡が取れる人がいましたら、ぜひお知らせください。





## World Cleanup Day 2023 のインパクト

### 今年のLDIWリーダーアンケートに86カ国から回答、47%が自国のWCD結果を肯定的に評価。

WCD 2023 の成果に最も満足した地域は北米(100%)、最も低かったのはアフリカ(32%)で、ヨーロッパのリーダーの半数強(52%)は満足を表明しました。

リーダーたちは、World Cleanup Day への参加レベルは年々高くなり、マスコミ報道も増え、独立したクリーンアップ活動や企業パートナーからの参加も増え、政府の関与も増えていると報告しています。

# 92%

リーダーの92%は、2024年9月20日のWCDにやる気満々

アンケートによると、92%の国において大規模グループでのクリーンアップが実施され、合計77%が地元自治体からの直接関与を受け、56%が地元公共機関内の代表者たちの関与によって構成されていました。

中央政府レベルでの関与の増加により、回答国の98%で閣僚や大統領が直接参加していることが明らかになりました。今年は、6人の首相と3人の大統領を含む国のトップレベルの大幅な増加が見られました。全体として、国の省庁と地方自治体の参画は平均してそれぞれ72%と76%でした。環境大臣は回答国の30%に参加しており、来年の参加国にはこの数字を増やすことを強くお勧めします。

環境活動にあらゆる部門が参画することは極めて重要です。な

# 81%

回答者の81%が  
学校向け教育プログラムに参加

ぜなら不法投棄ごみの解決策に特定して実行しなければならないことを幅広い分野で理解し、その意識を高め、その上で持続可能な変化を生み出す必要があるからです。アンケートの結果、LDIWのリーダーたちは、World Cleanup Day が自分たちの社会にさらに根付き、多くの地域で公式デーとなったことを喜んでいきます。

リーダーたちは学校(参加国の81%)、地域社会(同60%)、企業(同63%)での教育プログラムや、ごみの分別や堆肥化のプログラム(40%)やその他の活動(26%)など、WCD後のフォローアッププロジェクトを定期的に運営しています。

LDIWリーダーの驚くべき92%が、2024年9月20日に次回のWCDを開催することに高い使命感を感じており、その意気込みは2022年の同時期と比べて上がっています。

意欲がないと感じているリーダーはわずか3%であり、これらのリーダーは主に6年以上連続してイベントを企画しているリーダーたちです。

アンケートによると、国の体系的な変化を推進し、地元の影響モデルに取り組む継続的な動機が解決策の鍵となることは明らかであり、全体的によく取り組まれているテーマです。

また、社会におけるごみの影響に関する意識レベルを変える継続的な必要性と、それに対処するための分野を超えた強力な協力の必要性も高く認識されています。LDIWは、こうした共同の取り組みを通じてこのような変化を推進できることに興奮しています。

## 5年に亘る6回のクリーンアップ キャンペーンのインパクト

2018年以降、国連加盟国の95%を含む211の国と地域で世界の人口の1.13%にあたる9,100万人が参加し、543,704トンの不法投棄ごみを地球から除去しました

### 2018-2023



参加者数  
**9,100万人**



**211**  
の国  
と地域



国連  
加盟国比  
含 **95%**



世界  
人口比  
**1.13%**



**543,704**  
トンの  
ごみを収集



参加者



国と地域



国連加盟国比

**2018**

**1,800万人**

**157**

**76%**

**2019**

**2,120万人**

**180**

**83%**

**2020**

**890万人**

**166**

**77%**

**2021**

**860万人**

**191**

**85%**

**2022**

**1,480万人**

**190**

**86%**

**2023**

**1,910万人**

**198**

**90%**



## 5%達成国(2018-2023)



ラトビア

5.2%  
20186.4%  
20218.7%  
20227.7%  
2023

キルギスタン

7.2%  
20189.5%  
20197.9%  
2021

モザンビーク

6.1%  
20229.6%  
2023

ブルガリア

5.8%  
20186.2%  
2020

Kosovo

11%  
2019

カンボジア

9.3%  
2023

ミクロネシア

9.1%  
2021

2018年以来、持続可能な変化に必要な転換点である**人口5%**の目標を超えた国が7カ国あります。ラトビアはWCD6回中4回(連続3回を含む)で首位となりました。

# World Cleanup Day 感動ストーリー

## アンゴラ



「2018年、私は少人数のボランティアグループとともに World Cleanup Day Angola を始めました。私たちはみんなで地元の海岸から 20 トン 以上のごみを除去しました。細々としたスタートではありましたが、良いスタートでした。数年後、World Cleanup Day Angola は大勢を巻き込んだムーブメントに成長しました。2023年には、7,318 人のボランティアが全国各地のクリーンアップイベントに参加し、1,890 トンのごみを回収しました。

この成長は集団行動の力の証です。人々が変化をもたらすために団結すると、素晴らしい成果を達成することができます。World Cleanup Day Angola は国をクリーンアップするだけでなく、ごみ処理の重要性についての意識を高めま

す。私たちは人々に汚染の危険性と、自分たちの生活にどのように変化をもたらすことができるかを教えています。

街をきれいにすることは、すべての人の健康と福祉にとって重要です。ごみは病気、呼吸器疾患、その他の健康上の問題を引き起こす可能性があります。また、川や海を汚染する可能性もあります。World Cleanup Day Angola は、アンゴラをより清潔で健康的な場所にするに寄与しています。私たちはすべての人にとってより良い未来を築いています。World Cleanup Day Angola の将来は年ごとに大きく成長しています。国民の継続的な支援があれば、この国に変化をもたらし続けることができると私は確信しています。

私たちの目標は、アンゴラをごみのない場所にするにすることです。これが壮大な目標であることは承知していますが、私たちはその達成に全力で取り組んでいます。World Cleanup Day Angola の成功にご尽力いただいたボランティア、パートナー、サポーターの皆様には感謝しています。私たちは力を合わせて、すべての人にとってより良い未来を築いています。」  
レナート・ボルボレマ、WCDアンゴラ カントリーリーダー





# ブラジル

「ブラジルの WCD 2023 では、人口の 0.28 % に相当する 60 万人以上のボランティアが参加し、1,220 トンのごみが回収され、ボランティアの国内新記録を樹立しました。人口2億人を超えるこの広大な国で大規模な動員を実施するにはさまざまな課題がありましたが、私たちは全国最大のクリーンアップイベントを押し進める戦略を練りました。

私たちの主たる戦略は、州、地域、地方レベルで行動を組織するためにリーダーを動員すること。各都市で大規模なイベントを開催するために力やツテ、知識を結集することでした。今年はブラジル全州で1,841人の組織リーダーが活動を押し進め、イベントはオンラインで生中継され、2年連続で番組はスタジオで録画され、後日 YouTube にアップロードされました。

大学、企業、市役所など大規模なネットワークとの提携により、学生や従業員を行動に参加させることができ、全国への影響力が高まりました。メディアの力により、テレビ、インターネット、ラジオ、新聞、その他のメディアを通じて有機的に4,700万人以上の人々にリーチすることができました。ニュースは少なくとも246件のプレスリリースを通して広まり、価値にして総額2兆7,343億4,800万リアルという驚異的な金額に達しました。

クリーンアップ活動に加えて、2,034本の植樹をしたり、食料品や衣料品の寄付キャンペーンを実施したりしたほか、一般不用品の寄付を受け付けるリサイクル箱をブラジル全土に80か所設置しました。さらに、#ITakeCareOfMySpace活動は、ボランティアに自宅を離れることなく自然保護活動や自

然に関するケアを実践するように促しました。このキャンペーンは、新型コロナウイルスのパンデミック中に作成され、それ以来毎年実施されています。

- 環境清掃：家庭ごみの分別と適切な廃棄、食用油や電子機器廃棄物の処理、有害ごみのマッピング、デング熱の発生を排除するための清掃。
- デジタルクリーニング：CO2排出量を削減するために、デバイスから不要なメールやデータファイルを削除します。
- 連帯清掃：不用品を分離し、必要としている人に寄付。
- 心の浄化：「ワールド・ウェルネス・ウィークエンド」運動による瞑想、スポーツ、音楽、ダンス、ヨガ、読書、プロギング。
- 講演会、ワークショップ、イベントなどをオンラインで企画。

私たちは100万人のボランティアに向けてさらにレベルアップさせて2023年を締め括れたことを誇りに思っています。2024年には気候教育を通じてプラスの影響の次元を倍増させたいと考えています。」

エディアイン・ペレイラ

WCDブラジル（「リンパ・ブラジル」）カントリーリーダー





## ヨーロッパ最後の分割首都における 平和のための清掃

Let's Do It! Nicosia は分断された都市ニコシアを越えて島の両方のコミュニティを結集させ、共通の目的のために力を合わせることを目指して World Cleanup Day を実施します。城壁都市の11の要塞内全域とその周りの地域を清掃します。



Let's Do It! Nicosia の美しさは協力と協調にあります：ギリシャ系キプロス人とトルコ系キプロス人の各コミュニティの間に架け橋を築くと同時に、サステナビリティ（持続可能性）や生物多様性といった環境問題をキプロス国民に勧奨し、教育しています。

2021年にたった12人で始めましたが、積極的な駐キプロス米国大使館と北部のキプロスグリーンアクショングループ（Yesil Baris Hareketi）の協力や、多くの外国大使館、外交官、そしてUNDPの温かい参加により、2023年には125人のボランティアに成長しました。

「私たちは、Let's Do It! Nicosia が、私たちの世代にとって先例となり、そして次の世代に向けたインスピレーションとなることを期待し、ゆっくりと地球にやさしいステップを歩んでくれることを願います。」  
イリアナ・ニコルソン医師 Let's Do It! Cyprus

Let's Do it! Cyprus は、2023年を通じて合計30,000人以上のボランティアが参加しましたが、そのほとんどが小中学校の生徒でした。このキャンペーンでは、偏見や差別なく、すべての人に無料のクリーンアップ用具を提供するため、誰でも参加できます。

# キプロス



# 日本

「日本はゴミがほとんどない  
きれいな国だ」という話を時々聞きます。  
実際、日本の学校では生徒が自分たちで  
学校を掃除し、自分が行った場所や  
使った場所にごみを捨てないように  
教育されています。  
地方自治体や地域社会は  
定期的に清掃活動を行っており、  
ごみの分別ルールは古くから  
確立されています。

しかし、地方自治体がごみ処理システムを確立し、地域社会が街をきれいにしているため、多くの国民はごみ問題を個人的な問題や自分たちが取り組まなければならない問題として認識していない傾向があります。実際、非営利団体やコミュニティが実施するクリーンアップ活動へのボランティアの参加率はそれほど高くありません。

World Cleanup Dayは、こうした課題を突破し、ごみ問題を自分ごととして捉えるよう国民に影響を与える絶好の機会となっています。多くの個人が World Cleanup Dayに参加し始め（そして世界との新たなつながりを築き）、非営利団体も企業も World Cleanup Dayを活用してクリーンアップ活動を復興させています。個人からNGO、企業に至るすべての参加者も、世界規模のクリーンアップ運動を通じて連帯の瞬間を楽しんでいます。

2023年のWorld Cleanup Dayに向けて、私たちは100を超えるNGOや企業で構成されるパートナーの地域ネットワークを構築し、ビーチ、都市、公園、川岸を含む500以上の場所をクリーンアップしました。永見和夫氏（東京都国立市市長）やマイト・マルティンソン氏（駐日エストニア大使）らは、合計2万人近くの参加者に時間を割いて支援を提供した高官の一部でした。

2024年から国連の公式国際デーとして初めて開催される「World Cleanup Day」に向けて、私たちはより多くの市民を集め、プラスチックごみやその他のごみ問題を「自分ごと」として捉えるよう推し進め、さらなる取り組みに向けて頑張ってもらいます。」

浅井孝夫、Let's Do It Japan カントリーリーダー



# ニュージーランド

Keep New Zealand Beautiful は 2023 年の World Cleanup Day に、3,606 人のボランティアを動員して 全国 75 カ所でクリーンアップイベントを実施、合計 35 トンのごみを回収しました。

Keep New Zealand Beautiful が World Cleanup Dayに参加するのは今年で3年目となりますが、この日を毎年恒例の「クリーンアップウィーク」の開始日としています。それは地元の人々がそれぞれのコミュニティに参加して環境改善を促すニュージーランド最大のイベントであり、同時にごみに対する世界的な取り組みに貢献するものです。

この恒例行事は毎春7日間開催され、個人、学校、企業、地域グループに自然に出かけて行ってごみを拾うことを奨励することが根幹となっています。

「クリーンアップウィーク」は、環境から大量のごみを除去することを促進するだけでなく、環境教育の取り組みとしても機能し、参加者（そして国全体）に問題の大きさと適切にごみを処理することがいかに重要であるかを教えてくれます。

Keep New Zealand Beautiful のCEO、ヘザー・サンダーソン氏は次のように述べています。「私たちは World Cleanup Day のニュージーランドのメインパートナーであることを誇りに思います。またそれはクリーンアップウィークにとっても、世界中で同じ動機で多くの人々を結集させるムーブメントにグローバル規模で貢献できることは素晴らしいことです」

Keep New Zealand Beautiful は、政府主導のごみ削減機関として1967年に始まりました。1979年に新た

な会則と組織を持つ社団法人となりました。同年、New Zealand's Litter Act 1979 は、より厳しいごみ防止法を導入し、ニュージーランドにおけるごみ削減推進の責任を負う主団体として協会が公式に認められました。義務付けられたその地位は今日でも維持されています。

Keep New Zealand Beautiful は、ニュージーランドを代表する最も歴史のある環境非営利団体の1つであり、環境教育やコミュニティ主導の取り組み、行動変容キャンペーン、ごみに関する証拠に基づいた継続的な研究を通して、世代を超え、持続可能性や気候リテラシーに配慮したコミュニティの構築に邁進しています。

Keep New Zealand Beautiful は、2024年の World Cleanup Day に例年同様「クリーンアップウィーク」を開始します。





「人口約2億人のナイジェリアでは、  
毎年約250万トンのプラスチックごみが  
発生しており、  
そのうちリサイクルされるのは  
10%未満です。」

「この国の汚染問題は、不十分なごみ処理インフラ、ポイ捨てなど不適切な行動、未熟なごみ収集労働力、プラスチックごみの無分別投棄と焼却、意識の低さ、資金不足などによって悪化しています。」

Let's Do It Nigeria は、周囲のごみ問題を見てアクションを起こすよう直接呼びかけられたところから始まり、すぐに行動を起こすために連携し、各州で解決策を考え出すためのチームを結成しました。

2023年の World Cleanup Dayは、豪雨にも関わらず非常に多くのチームが、この日を確実に名誉あるものにするために、あらゆる逆境をものともせず集結しました。実際、26,905人がこれに参加し、WCDの国内新記録を樹立しました。私たちは自らの行動で環境を清潔に保ち、よりクリーンな社会を推進しようというメッセージを明確に伝えました。

対象となった全国28州の記録によると、合計141,435個のごみ袋に2,829トンのごみが収集されました。

参加した地域チームは、皆クリーンアップ活動が政府、企業、コミュニティ、市場、個人にメッセージを伝える第一歩



になったと感じています。彼らの積極的なクリーンアップ対策を通して、ごみ処理の改善が現実を変え、生活の質を向上させる機会を生み出すということが明らかになりました。

これまでの過程を共にし、多くのことを分かち合い、取り組みを継続するために費やしたエネルギー、情熱、決断力を共有したすべての地域コーディネーター、ごみゼロ社会活動家、団体にお礼申し上げます。

道のりはまだ長いことは承知していますが、クリーンで健康的なごみのない世界というビジョンの達成に安住すべきではありません。

Let's Do It Nigeriaは皆さんに感謝の意を表します。」

オルミド・コーカー  
Let's Do It Nigeria カントリーリーダー

# ナイジェリア



## ツバル

ツバル諸島の島民には、  
自国が直接影響を受けている気候変動に  
関する意識向上について  
確固たる評判があります。

地方自治体のごみ処理部門と地元の赤十字社の協力のもと、首都圏の100人を超える人々を動員してビーチクリーンアップを行い、他の8つの島でも多くの学童たちが参加しました。

初めての報告で、私たちはツバルのコミュニティをLDIWファミリーに迎え、14,000 kgを超える驚異的なごみ回収に敬意を表します。Talofa and fakafetai! (サモア語・こんにちは、ありがとう!)





イギリスはEU脱退以来、独特の環境課題に直面しています。しかし 2023 年の World Cleanup Day では団結と回復力を強調するメッセージを伝え、地域社会が自主的に環境管理に取り組んでいることを示しました。ボランティアは公園や路上、ビーチをクリーンアップし、地球規模のコミュニティを育む精神において、環境責任が政治的境界を超えることを示しました。

新型コロナウイルス後の影響もまた、人間と地球の両方を守るための新たな取り組みを反映して、その役割を果たしました。WCD は、個々の行動がどのように集団に大きな影響を与えることができるかをはっきりと立証しています。

WCD 2022 は女王エリザベス 2 世の逝去を悼んでいる時期と重なり、WCD 2023も追悼の感情も冷めやらない時期に行われました。今年、参加者はこの共通の目的意識を環境への取り組みに持ち込んでおり、多くの人々が自分たちの行動を故女王の地域社会に対する義務という遺産への賛辞とみなしています。

イギリス全土で、さまざまなコミュニティがクリーンアップ活動に参加しました。地方自治体、学校、企業、その他のNGOがイベントを支援する上で、環境問題への理解を育むという重要な役割を果たしました。

ソーシャルメディアでは、クリーンアップ活動の画像やストーリーが共有され、#worldcleanupdayがトレンドとなり、WCDの日に人々が一丸となって協力し、団結したその精神や意気込みの象徴となりました。

WCDの影響は目先の環境上の利益を超えて広がり、プラスチック汚染、気候変動、生物多様性の喪失といったより幅広

い話題へと議論を広げています。それは個々の責任と集団の力が、世界的な変化をもたらす上でどれほど重要であるかを強調しています。

企業の参加は、ビジネスにおける環境意識の向上に大きな変化を示しました。

企業はクリーンアップ活動に資金提供したり、従業員を環境管理に参加させて、持続可能性への取り組みを始めたり推進したりしました。

WCDは明らかな達成感をもって終了しました。82,000人を超える参加者が、不法投棄された1,450トンのごみを回収し、以前は散乱していたエリアが復元され、コミュニティはお互いや環境へのつながりをより感じる事ができました。

WCDが2024年から国連のカレンダーに追加されたというニュースは、来年のイベントをより一層強力に結びつける動機を与えてくれます！

手短かに言うと、イギリスの WCD 2023 は環境への取り組み以上のものとなりました。それは、連携、回復力、そしてコミュニティというテーマを称賛し、未来への希望に満ちたビジョンを提供し、大きな変化の時期を通過している私たちの旅を反映しており、分断や不確実性の時代であっても、社会のために集団で行動するという考えを強化するものでした。地球に対する善は、強力かつ永続的な方法で人々を団結させることができます。

**デビッド・パークス、WCD 英国 カントリーリーダー**



# イギリス





イエメンは世界で最も複雑な人道危機の一つに直面しています。9年に及ぶ壊滅的な紛争と経済危機により、何百万人もの人々が人道支援を必要としています。

非効率なごみ処理システムは健康や紛争、気候変動、家を失った人々の移動、衛生・環境サービスの崩壊と明らかに関係していて、それに不十分な行政が重なって感染症にとつての『パーフェクトストーム』を生み出しているのです。

ユニセフの報告によると、水と衛生インフラへの甚大な被害により、920万人の子供を含む1,780万人以上がきれいな水と衛生システムが整備されていない環境下にあります。

貧困は、都市部でも農村部でも基本的な家庭における衛生管理が行き届かないもう1つの理由です。特に後者は個人の衛生の重要性についての意識がなく苦しい生活を強いられています。コミュニティ全体がきれいな水と衛生設備にアクセスできないため、日常の家庭ごみ廃棄がすでに悲惨な状況に陥っています。

これが、イエメンのWCDチームが単なるクリーンアップ活動に留まらず、包括的かつ持続可能な意識向上キャンペーンを実施して、全体的な環境と健康状況の改善を目指す理由です。子供430人と女性800人を含む、住民2,500人を対象にしてパイロット計画が実施された地域がありました。この計画は、WCDイエメンの国内パートナーである「**ブライツ財団**」の自己資金で賄われました。何百もの家庭が戸別訪問の情報キャンペーンに参加し、

ごみ処理システムの導入、収集袋の配布、収集トラック3台と小型ブルドーザーの配備がなされました。コミュニティのリーダーたちは、効果的な清掃活動の組織化、その管理、そして実施方法について研修を受けました。

5つの地区で94人が結集してすべて健全な方法で108トンのごみを処理しました。その結果、住民にとってより安全な環境が生まれ、地域社会をより良い衛生レベルに維持するために必要な知識が定着しました。

課題はまだ残っています。溜まったごみや浄化槽はトラックやブルドーザーがアクセスできないところにあることが多く、感染や危険などから身を守るための個人用保護具も不足していたり、懐疑的な見方をする人もいたりするため、参加を促すことは難しいです。それにもかかわらず、コミュニティの反応によると、この実験的計画は圧倒的に支持され、受益者の90%は参加した活動の質と有効性に満足していると表明しました。今年も UNOPS (国連プロジェクトサービス機関) チームの参加のおかげで、将来の計画やこれからのWCD活動にとって非常に心強いものになりました。WCDイエメンは、国連カレンダーへの掲載が2024年の計画への支持をどれくらい強化できるか、楽しみにしています。



# イエメン







## グローバルプロジェクトとキャンペーン

### タンザニアとナミビアのSEEP (持続可能な環境教育プログラム)

SEEP (持続可能な環境を構築するための教育プログラム) は、他のアフリカ諸国への拡大を目的として、Let's Do It WorldとLet's Do It Namibiaによって運営されてきました。

次に協力する国は、タンザニアです。代表的な指導者組織、[ニペ・ファジオ](#)は環境教育の知識と活動をタンザニアの学校に伝えるという崇高な目的を掲げています。

このプログラムは、国連の持続可能な開発目標に沿って、特にごみ問題、気候変動、循環型経済移行の基礎づくりに焦点を当て、環境行動のベストプラクティスに対する意識を高めることを目的としています。2023年に、プロジェクトのすべての教育用ランディングページとツールキットを全面的にデジタル化する機会を利用しました。

このプロジェクトにはダルエスサラーム市の50校が参加し、ニ



ペ・ファジオにはSEEP教育とそれを主導する権限が与えられました。環境教育指導者の支援を受けながら学校内でのグリーンプロジェクトの創設を促しています。ベストプロジェクトは、地方自治体の支援を受け、メディアでもその成功が高く取り上げられます。

私たちは、SEEPプロジェクトモデルをLet's Do It Worldネットワーク内の他の国々に広がっていくことを楽しみにしています。

このプログラムは、[Center for Environmental Investments SA](#)によって支援されています。



## 2023年 LDIW 年次カンファレンス

### Let's Do It World カンファレンス2023 知恵を出し合い、楽しく団結しよう！

1月26日から29日まで、LDIW メンバーと世界中の幅広いネットワークから800名を超える参加者がタリンの会場とオンラインに集まり、すべての人にとってごみのない未来を構想し、創造しました。**4日間の会議中**、各国のリーダー、チーム、主催者は「団結を具体化しよう!」というテーマのもとで集まり、互いに学び、計画し、刺激し合いました。

会議はエストニア大統領**アラル・カリス閣下**によって開会されました。同氏は、ワールドクリーンアップデーが地球上のほぼすべての国を参加させることに成功し、それ自体が素晴らしい成果であると述べました。「Let's Do It World は、教育、気候教育を通じて人々の考え方に変化をもたらすことを提案するプラットフォームの1つです」と大統領は述べました。

国連人間居住計画（国連ハビタット）事務局長**マイムナ・モハド・シャリフ女史**は挨拶の中で、すべての人にとって無駄のない健康的な世界を築くための共同努力の重要性を指摘しました。

会議では共に、過去のワールドクリーンアップデーを祝うとともに、

モザンビーク、イラン、インド、メキシコ、エストニア、ウクライナなど、さまざまな国でのクリーンアップの成功事例について聞きました。後者では、戦争にもかかわらず、12万人近くが国を清掃するためにやって来たと、Let's Do It Ukraine のリーダー、**イーウリア・マルケル氏**が報告しました。

カンファレンスの最初の3日間は、環境教育や循環型経済のケーススタディから環境リーダーシップに至るまでのモジュールに基づいて学習が行われました。起業家、経済学者、著書「The Blue Economy」の著者である**グンター・パウリ氏**の力強いスピーチや、**マインドパレー**のCEOであるヴィンセン・ラキアーニ氏からのインスピレーションとモチベーションが注ぎ込まれました。

循環型経済のケーススタディのプレゼンテーションには、廃棄物問題の考えられる解決策の科学的理解から得られる協力、イノベーション、解決策の例が含まれていました。たとえば、**SITRA**から人々により持続可能な生活を促すフィンランドの実践、廃棄物をどのように資源に変えることができるかなどです。**Ragn Sells** による貴重なリソースと、**NoteAffect** によるごみのない世界のための環境教育。その目的は、インパクト、ソーシャルメディア、そして私たちの内なる世界の浄化に関するワークショップによって、参加者に力を与えられたと感じてもらうことでした。結局のところ、世界をきれいにするだけでなく、自分自身も大切にしなければなりません。





集中的な学習の後、会議の参加者は年次授賞式に集まり、ネットワークメンバーの昨年の優れた活動が讃えられました。中世のタリン旧市街にある「ハウス・オブ・ザ・ブラザーフッド・オブ・ザ・ブラックヘッズ」で行われた式典では、20近くの賞が授与されました。

「チーム・オブ・ザ・イヤー」賞は、戦時中約12万人を動員したLet's Do It ウクライナチームに贈られた。動員賞は、ラテンアメリカで最大の人々の参加者であるLet's Do It ブラジルのチームと、紛争、戦争、環境障害の中での貢献に対してパキスタン、キルギス、アフガニスタンのチームにも授与された。

Let's Do It モザンビークは、2022年のワールドクリーンアップデーでアフリカ最大の動員数と、前年比で参加者数が最も大きく増加したことが評価され、この賞を受賞しました。彼らのチームは、同国から200万人を動員することができましたが、これは驚くべきことです。インパクトがあります！ Let's Do It メキシコは、2022年のワールドクリーンアップデーに最も多くの人々を参加させた団体であり、モビライズ（動員）賞も受賞しまし



た。LDIWネットワークの皆様、おめでとうございます。あなたたちは本当に素晴らしいです！

授賞式に続いて、地元ミュージシャンをフィーチャーした素晴らしいエンターテインメントプログラムが開催されました。私たちは、地域の古典と現代作品の素晴らしいレパートリーを提供してくださった大使のエリナ・ネチャエワ氏に非常に感謝しています。彼女はまた、Let's Do It World ネットワークに捧げ、サポートする[最新シングル](#)「Planet B」も披露しました。

Let's Do It World カンファレンス2023は、欧州地域開発基金、[エンタープライズ・エストニア](#)、[エストニア国立市民社会財団](#)の支援を受けました。



## デジタルクリーンアップデー 2023

2023年、第4回デジタルクリーンアップデーが3月18日に開催されました。

この毎年恒例のキャンペーンを通して、私たちはデジタル・ライフスタイルを見直し、使用していないアプリや不要な電子メール、画像やファイル、そしてニュースレターの購読解除など、必要のないデータをスマホやパソコンから削除することを、個人、組織、地域に奨励しています。

このような積極的な行動はCO2排出量の削減に貢献し、気候変動の抑制に役立ちます。実際、毎年約10億トンのCO2がインターネットとそれを支えるシステムから生み出されています。

2023年には、105の国と地域から387,283人がデジタルクリーンアップデー（Digital Cleanup Day）に参加しました。

合計で**6,968,869GB**のデータが削除されました。これにより毎年**1,742トンを超えるCO2**の生成を抑えることになります。

2023年のデータ削除の合計とCO2抑制数値は、デジタルクリーンアップデーが始まって以来の新年間記録です。



### 参加国のうち上位3ヶ国

**368,440**  
フランス

**7,841**  
イギリス

**1,722**  
スペイン

### データを多く削除した国

フランス

インドネシア

アメリカ

**700万GB のデータを削除**

年間1,700トンのCO2生成を抑制



## アジアリーダー会議

Let's Do It 台湾 が主導するLet's Do It World アジア会議は、Let's Do It インドネシアと Let's Do It シンガポールの共催でおこなわれました。アジア会議は新型コロナウイルス感染パンデミックにより中断されていましたが、3年ぶりにこれら3国の主導で7月13～16日に台湾で開催されました。

会議はインドネシア、アメリカ、ドイツ、シンガポール、日本、マレーシア、インド、ミャンマー、ベトナム、マカオを含む12カ国の代表とともに台北市で始まりました。

台湾は開催国として、会議2日目に訪問活動や学術セミナーを開催するなどして、持続可能な環境保護をプロモーションしました。

Let's Do It World の代表者たちは、インドネシアからの招待客インドネシア調整省人事副大臣ソエパルト博士、アースデイ本部のマイケル・カラベティアン氏とともに新北市政府を訪問し、情報共有を行い、環境プラスチック削減政策について話し合いました。

東南アジアは料理やライフスタイルは比較的似ているため、新北市の侯友宜市長は同市のチームを会議に導き、家庭でのビニール袋の使用や夜市での使い捨て食器の使用削減に関する市の方針を共有しました。

各国からの参加者は深い感銘を受け、それぞれの国で可能な実施方法について議論を交わしました。ヘイディ・ソルバLet's Do It World 代表兼グローバルネットワーク長は、「対話を始めて協力関係を築けば、より多くの人が世界に変化をもたらす環境活動に参加できるようになる」と述べました。

国立台湾大学社会科学学院は、環境回復力に関する学術セミナーを開催し、6人の教授が人口、環境、メディアなどのさまざまな側面について詳しく解説、気候変動への適応性について議論しました。開会式のスピーチでスー・ホンダ学部長は、「NGOは世界で最も誠実な声と視点を持った組織です。このアジア環境サミットを支援することで、私たちは世界のより良い未来の創造に貢献することができます。」と語りました。





「Let's Do It Asia」ディレクターのレオ（ジャン・リャン）・リン氏は「経験を共有し、お互いから学ぶことで、変化のさまざまな可能性を開くことができます。」と語り、LDI台湾代表のジュアニタ・ホー氏は、「市民の行動は環境問題におけるパズルの最後のピースであり、前向きな変化を主導し促進する力を持っています。WCDと同じように、私たちの声が団結すればするほど、私たちの影響力は強くなります。」と付け加えました。

愛らしくダイナミックでもあるLDIアジアコーディネーターのマグスティナ・イスカンダル・クロムバッハ氏が率いる代表者たちが再び集まり、この期間にさまざまな国が直面した経緯や課題を共有しました。この交流は貴重で感動的なもので、2023年のWCDに向けて私たちがさらに団結することができました。

ユースフォーラムでは企業の視点や懸念も持ち込まれ、ESG（環境・社会・ガバナンス）の持続可能性に長年注力してきたKPMG ESGコンサルティングのマネージングディレクターであるHuang Zhengzhong博士と台湾セメント株式会社の副ゼネラルマネジャーYe Yujun氏による特別講演が行われた。

Let's Do It 台湾の持続可能な教育プログラムENODE Earth Citizen Ambassadorsに参加する学生たちも積極的に参加しました。交流と継承を通じて、地域に影響力を及ぼす方法を検討しながら、新しい世代に国際的な視野を身につけさせることが目的です。



## アドボカシー活動

### 国連ハビタット 総会とイベント ケニア、ナイロビ市

国連ハビタットは4年に1度、ケニアのナイロビに本拠を置く本部で総会を開催しています。World Cleanup Dayを国連国際デーとして認定させるための世界的な取り組みを支援しているLet's Do It Worldとエストニア政府は、国連ハビタットの総会での投票セッションに参加しました。

エストニア政府は関係者全員に、国連国際デーへの採択案の承認を通じて、WCDに関わる活動や取り組みをより多くの人々に知ってもらい、行動を起こすよう呼びかけました。その後、総会の後に2つのサイドイベントが続きました。

LDIWは、参加外交官のWCDに対する意識を高めるために、6月4日にイベントを主催しました。LDIWとLDIケニアのリーダーシップに加え、ナイロビ市郡政府の支援の下、ウフル公園のクリーンアップ活動のほか、クリーンアップ後のスピーチ、ポップアップごみリサイクルセンター、クラフトピクニックなどの祝典が行われました。

国連代表団は、意識向上キャンペーン、植樹、クリーンアップ活動を企画した300人以上のボランティアに参加しました。イベント全体のために移動式仕分けステーションが準備され、発注されましたが、現在、ナイロビ市のUNEP本部に新しい場所が見つかりました。LDIWは、このイベントの開催にご協力いただいたLDI ケニアに心から感謝の意を表します。





## ブリュッセルでWCDキックオフ



「World Cleanup Day 2023 キックオフイベント」が6月6日にブリュッセルの欧州議会で開催されました。このイベントは、責任ある資源の使用を促進し、よりクリーンでより持続可能な地球を作るための個人の行動の重要性を強調したものとなりました。

環境問題を解決させる循環型経済と、ポジティブな変化を推進する市民社会運動の重要性と役割がこのイベントの焦点でした。

主な講演者にはロベルタ・メッツォラ欧州議会議長、マリオン・ウォルスマン欧州議会議員、ヘイディ・ソルバ Let's Do It World 代表、ホルガー・ホランドEU気候協定大使兼 LDIWヨーロッパ地域ディレクターが含まれています。

World Cleanup Dayムーブメントに参加している27か国の指導者たちも出席し、欧州議会議長は2023年9月16日のWorld Cleanup Dayへの参加を奨励しました。

さらに続いてWorld Cleanup Day、欧州連合、および世界中の地域やムーブメント間の将来的な協力についてパネルディスカッションが行われました。



## クリーンアップ活動をしながらイベント ケニア、ナイロビ市

6月8日、エストニア環境省とNGO Let's Do It World は、World Cleanup Day に関するパネルディスカッションを主導し、集団的な取り組みがいかに強力であるかに焦点を当て、持続的な社会変化をもたらすために必要な持続可能な解決策を見つけるためには分野を超えた協力が不可欠であると強調しました。

パネルディスカッションには、カウボ・ハインマエストニア環境省副大臣、アンドレ・ジクス国連ハビタット都市基本サービスセクションチーフ、ヘイディ・ソルバ氏 Let's Do It World NGO 代表、キャサリン・ムバイシケニア国家環境管理局次長で構成され、アーメド・ファシーエジプト青年愛財団創設者が司会を務めました。



## ハイレベル政治フォーラム ニューヨーク市

7月15日、ニューヨーク市で2023年の国連総会のサイドイベントとして行われたハイレベル政治フォーラムは、ポイ捨てを防ぐごみ処理と行動変容の重要性を促進する優れたツールであるとして World Cleanup Day を取り上げました。このイベントでは、World Cleanup Day がデータをどのようにスケールアップして行動に移すことができたか徹底的に調査しました。

レイン・タムサール大使（エストニア国連常任代表）とセグット・オナル大使（トルキエ国連常任代表）によって円卓会議が開かれました。マイムナ・モフド・シャリフ（国連ハビタット事務局長）による基調講演「データからアクションモデルへ」が行われました。

イベント中、アンナ・カリン・エネストロム大使（国連スウェーデン常任代表）、ジャンヌ・ムラド大使（駐レバノン臨時代理大使）、ラビンドラ大使（国連インド常駐代表代理）、ントタン・タオロ氏（ボツワナ地方政府省地方統治・開発計画局長）、アンドレア・インナモラティ氏（イタリア環境陸海省上級政策顧問）、スティーブ・ジュエット氏（全国清掃デー）からもケーススタディが紹介されました。

このイベントに続いて、米国の World Cleanup Day の代表者であり指導者である National Cleanup Day のスティーブ・ジュエット氏のリーダーシップの下、ニューヨーク市のハドソン川沿いで素晴らしいクリーンアップ活動が行われました。





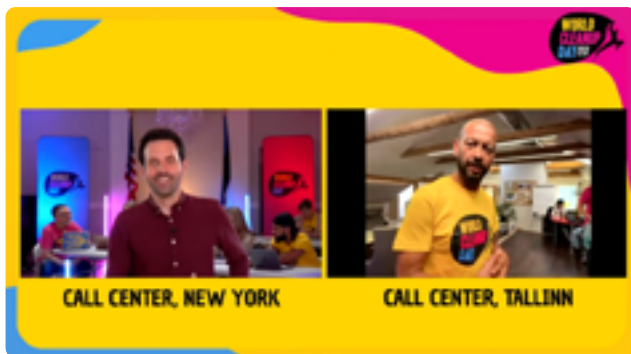
## 米国、ニューヨーク市に WCDコール&メディアセンター

9月20日、2023年 World Cleanup Day コール&メディアセンターがニューヨーク市に設置され、エストニアハウスからライブ中継が行われました。これは、文字通り目前に開催された国連総会（UNGA）に合わせた重要なサイドイベントとしての機能を果たしました。

このような大きな望みを賭けた計画を実行するために、8時間の放送スタジオプログラムが作成され、専門のオーディオビジュアル制作チームによって現場にスタジオが建設されました。スタジオでのライブパフォーマンス、インタビュー、ビデオ、ゲストとのディスカッションなど、この日のコンテンツはコール&メディアセンターによって制作されました。

コール&メディアセンターチームは、Let's Do It World 本部のコアメンバー5名と現地ボランティア数名によって構成されました。ライブ放送だけでなく、NY チーム皆が100を超える国のリーダーたちとのライブおよび録画インタビューを実施しました。LDIWのタリン本部に戻ったところで、さらに30人のボランティアによって追加支援が提供されました。

スタジオでのプログラムは、WCD関連トピックスについての専



門家の見解や意見で構成されました。6つのパネルディスカッションと8つの先駆的なリーダーシップのライブインタビューなど国連総会に直接関係する30名のゲストが参加しました。これらには、各国大使のほか、国連ハビタットや国連SDGの代表リーダーたちやケルスティ・カルジュライド氏（2016～2021年エストニア大統領）、ファアティハ・アヤット氏（WCDユースアンバサダー）などの著名な環境団体やWCDサポーターの代表者、さらにメルル・リーバンド氏（WCDアンバサダー兼アスリート）、その他も含まれます。



プログラムの残りの部分では、World Cleanup Dayのリーダーたちとのオンラインインタビュー、国連大使とのライブインタビュー、そしてWorld Cleanup Dayに関するいくつかの重要なビデオ録画が交互に行われました。さらに、World Cleanup Dayのイベントや原則に関連する多数のビデオシーケンスを紹介したほか、後援者やアンバサダーからのライブおよび録音されたメッセージやニューヨークの人々の街頭インタビューを集めたビデオも上映しました。

このプログラムは、[YouTube](#)、LDIWソーシャルメディアチャンネル、および[Exponaut](#)のプラットフォームでライブ配信されました。

## 米国、ニューヨーク市での 国連総会サイドイベント

9月20日 Let's Do It World は、今年の World Cleanup Day に続いて国連総会に合わせ、World Cleanup Day を国連の持続可能な開発目標の達成を加速するツールとして著名な識者やゲストに紹介しました。

国連エストニア政府代表部と国連ハビタットの支援を受け、エストニアハウスで行われたこのイベントは、SDGsへのプラスの影響を促進するものとしてのLDIWの立場を強く印象づけました。

エストニア共和国のアラル・カリス大統領は正式に議事を開始し、「今シーズンの国連総会における我々の目標は、World Cleanup Day を国連国際デーに宣言する決議を採択することです。私たちはすべての国連加盟国に共同主催者として参加するよう呼びかけます。私の希望は、このイベントがすべての人にさらなる行動を起こし、その素晴らしい実施事例を共有し、この地球をよりクリーンで住みやすい惑星にするよう呼びかけることです。」と述べました。

引き続き持続可能性問題について議論が行われました。パネリ

ストは、マイムナ・シャリフ国連ハビタット事務局長、ジョティ・マトゥール・フィリップNC事務局長、マリーナ・ポンティ国連SDG 行動キャンペーンディレクター、ランジ・オウコ・アウォリ女性権利国際問題部長、ベリス・エキンシトルキエ外務省エネルギー・環境局長代理、ヘイディ・ソルバ LDIW 代表兼ネットワーク長で構成されました。

このディスカッションから浮かび上がった全体的なテーマ、調整された協力、大規模な関与、相乗効果のある協力に対して強い支持が明らかになりました。LDIWは、これが意識向上運動であることを強調すると、パネリストの皆さんは、持続的で体系的な変化を達成するには人間の行動を変える必要があることを認識しました。国連SDGアクションキャンペーンディレクターのマリーナ・ポンティ氏は、「誰もが変革の主人公となることができ、心と心がつながれば、変化は起こります。」と簡潔にまとめました。

このサイドイベントの詳細については、[ブログページ](#)をご覧ください。





## ワールドシティデー

[World Cities Day](#) (世界都市デー) は、国連の国際ウィーク&デーにある多くの行事の1つです。10月31日に国連ハビタットの「アーバン・オクトーバー」プログラムが終了するこの日、国や地方自治体から大学、NGO、地域に至るまで、持続可能な都市化に関心のあるすべての人が、活動、イベント、ディスカッションを開催または参加することが奨励されています。都市の急速な変化によって生み出される課題についての討論に参加する機会です。

トルコのイスタンブール市で行われ、「すべての人のための持続可能な都市の未来への資金提供」をテーマとし、都市計画への革新的な投資をどのように解放つかを模索しました。

Let's Do It World は国連ハビタットからLDIW運動を代表して招待され、循環型経済などのテーマに関する国際的に著名な専門家と並んで、「廃棄物から富へ」と呼ばれるハイレベルのパネルディスカッションに参加しました。

循環型経済への移行に対する世界的な注目を踏まえ、パネリストたちは、国や地方自治体が持続可能な運営金融を通して循環型経済に移行するために導入可能な戦略について議論しました。

話し合いの中で、ヘイディ・ソルバLDIW代表は次のように強調しました。「クリーンアップだけで解決できるものではありません。そして私たちは清掃するだけの組織ではありません。LDIWは世界中で、ごみと汚染をなくすために国境を越えて一丸となって取り組む力を実証しているのです。意識向上に取り組み、行動変化に取り組み、協働に取り組みましょう。」

World Cities DayではトルコのLDIWリーダーであるジェンギズ・カサク氏(写真右)とも出会うことができました。同氏は、「イスタンブールで開催されたWorld Cities Dayに出席する機会に恵まれ、そこでは、持続可能で活気に満ちた都市空間を形成しようという共通の取り組みに多くの団体が集まりました。私たちの都市のより良い未来の構築に向けた団体の献身的な取り組みを目の当たりにして本当に感動しました。Let's Do It トルコを通じてよりクリーンでより住みやすいコミュニティを作るという使命を継続していく中で、これらの素晴らしいパートナーと協力できることはとても嬉しいです。」と語りました。

ディスカッションへのリンクを含む、このイベントの詳細な説明については、[ブログページ](#)をご覧ください。



## 国連気候変動会議(COP28) UAE、ドバイ市

### COP28で注目を集めた Let's Do It World と World Cleanup Day

COP28 への出席により、WCD と LDIW 運動の知名度が大幅に高まり、貴重なネットワーク作りとプロモーションの機会が得られました。4日間の過密なスケジュールの中で、ヘイティ・ソルバ代表は5つの討論会に出席し、また出席したLDIW各国リーダーたちと会いました。

エストニア国立市民社会財団 (KÜSK) の支援を受けて、LDIW 代表団は12月9日にドバイに到着しました。ディスカッション、ディベート、ネットワーキングの長くて忙しい週末が始まります。

LDIWは、国際固形廃棄物協会 (ISWA) での2つのパネルディスカッション(「ごみゼロ:意識から行動へ」と「持続可能なごみ管理のためのデジタルイネーブラー」)、そしてエストニアパビリオンでの3つのパネルディスカッション(「持続可能な変化のトリガーとしてのWCD」、「アフリカ諸国におけるWCDインパクトモデル:モザンビークの例」、および「気候適応と水:スマートソリューション、スマート雨水利用システム、利用可能なオープンデータ」)で講演するよう依頼されました。完全な概要については、次のページのリンクを参照してください。

国連国際デーに World Cleanup Day を追加する決議を宣言する国連総会の [公式発表](#) は、エストニアのパビリオンで開催された、「持続可能な変化のトリガー」パネルディスカッションの始まった時でした。このディスカッションには長年LDIWとWCDの支持者であるケルスティ・カリュライド元大統領(2016-2021)を迎えていました。



この刺激的なニュースは、パネルディスカッションでもCOP28自体でもWorld Cleanup Dayを積極的かつ公に宣伝する絶好のプラットフォームとして機能することになりました。

さらに、COP28 はLDIW ネットワーク内のつながりを深めるメカニズムとして機能し、出席した World Cleanup Day 各国リーダーたちへの話題提供となりました。出席したリーダーたちは、[グルサラ・ガシモワ](#) (アゼルバイジャン)、[ファタイ・アイナ](#) (ベニン)、[エディレイン・ペレイラ](#) (ブラジル)、[マハマト・ソウカヤ](#) (チャド)、[アイヤン・チニバエフ](#) (キルギス)、[アブドゥル・ハク・パングラニ](#)、[グルファム・アビド](#) (パキスタン)。リンクをクリックしてインタビューをご覧ください。

別のイベントでは、[プロジェクト・ライズ](#)のムスタフ・アリ氏とアラブ首長国連邦の WCD カントリー リーダーも参加してくれました。リーダーたちとの会話では、地元だけでなく世界にも社会的にWCDを最大限に高める方法に焦点が当てられました。これらの素晴らしいリーダーたちに会えたことは、とても豊かでやりがいを感じる経験であり、本当に光栄なことでした。





ISWA（国際固形廃棄物協会）パビリオンに話を戻すと、「持続可能なごみ管理のためのデジタルイネーブラー」に関するディスカッションでは、プラスチックごみなどをリサイクルするためのスマートごみシステムの専門家を中心に進められました。議論の対象となったのは、ごみ分野における気候変動回復力の促進、国民と既存データとの架け橋の構築、デジタルアウトリーチ力の活用、この分野の前進させる焦点である社会的関与を高めることなど、オープンデータの役割でした。

COP28を総括すると、私たちの代表団は、LDIWとWCDを代表し、あらゆる分野で新たなつながりを作り、ムーブメントのアンバサダーとしての役割を果たただけでなく、極めて重要なことに、私たちの使命に強い関心を示してくれる新しい友人を作ることができたことは幸運なことでした。WCDのリーダーがいなかった国に、将来的にWCDリーダーになってもらえそうな人が何人もいることを確信しました。

関わり合うこと、エンゲージメントが最も重要です。現実の人々とリアルタイムで対面で会話できる体験に勝るものはありません。場所、政治的内紛、抗議活動など、COP会議にはさまざま

な議論が集まるにもかかわらず、COP28に参加し、このような有意義な関係を築く機会を与えていただいたことに、私たちは非常に感謝しています。

Let's Do It World は非政治的で包括的なムーブメントであり、World Cleanup Day はまさに私たちの価値観、すなわち協力、積極性、そして人々のおかげでこうした動きが生まれています。これらがなければムーブメントを起こせません。それ故、どこにいてもできる限り皆さんを代表するよう努力しています。

最後に、この4日間から得た最大の教訓は、人々の力は権力者よりも大きくなり得るということであり、私たちの使命は、世界中の人々が団結することを学び、世界の強力な善の力になることを確実することです。

すべては私たち個人の選択から始まります。

私たちのブログページで、COP28での私たちの存在に関する[詳細な説明](#)をお読みください。

# パートナーシップ



REPUBLIC OF ESTONIA  
GOVERNMENT

## エストニア共和国政府

エストニア共和国政府は、2024年から9月20日と正式に指定された World Cleanup Day の公式国連デー承認を求める主要な参加者でした。NGO Let's Do It World が発足して以来、エストニア政府は Let's Do It World 本部やその広範なムーブメントのパートナーとして、一貫して重要な支援者の役割を果たしています。

## 国連ハビタット

2020年以来、Let's Do It World は Waste Wise Cities UN-Habitat (国連人間居住計画) 諮問委員に任命され、世界的なキャンペーンや地域への関与に関する専門知識を提供してきました。UN-Habitat と Let's Do It World の間のパートナーシップは、2021 年に覚書に署名し正式に締結されました。この協力的な取り組みは、包括的で安全かつ回復力のある地域と都市を育成することに力を尽くしています。共同イニシアチブには、持続可能なごみ管理、ごみに対するポジティブな認識の提唱、廃棄物から資源への考え方の転換、Waste Wise Cities (ごみ処理の行き届いた都市) と World Cleanup Day を支援する地方、国内、地域、国際的なイベントへの積極的な参加が含まれます。さらに、国連ハビタットは、今後の World Cleanup Day の事務局を主催する協力組織です。

UN HABITAT  
FOR A BETTER URBAN FUTURE



## 国連SDGs

国連SDGアクションキャンペーンは、一般の人々に参加を呼びかけて活発化させ、メディアの関心をも引き込みながら準備されたイベントを通して、1,700以上の組織と協力し、世界中から数百万人を動員し、持続可能な開発目標 (SDGs) を積極的に追求しています。Let's Do It World は、国連Act4SDGsキャンペーンの招集パートナーを務めました。#Act4SDGsに特化したグローバルウィークが9月に開催されますが、Let's Do It World はWorld Cleanup Dayなどの取り組みで毎年貢献しています。これらの共同の取り組みは、SDGsの進歩促進にプラスの影響を与え、人間と地球双方に有意義な変化をもたらしてきました。国連SDGアクションキャンペーンと Let's Do It World は協力を強めて取り組める追加分野を特定するために定期的に戦略会議を開催しています。注目すべきことに、2023年には World Cleanup Day は傑出した動員活動への努力が認められ、国連SDGアクションアワードを受賞しました。



## UNEP (国連環境プログラム)

Let's Do It World は、国連環境計画と国連環境総会の両方のメンバーとして正式に認定されています。これは、地球環境への取り組みに対する組織の活動が高く評価されているということです。Let's Do It World は認定メンバーとして、他の国際パートナーとの協力活動に積極的に取り組み、環境の持続可能性と意識という共通の目標に向けて取り組んでいます。

## アフリカ国立オリンピック委員会

Let's Do It World のアフリカ大陸における世界で最も重要なパートナーは、アフリカ国立オリンピック委員会 (ANOCA) です。ANOCAは、過去および現在において、World Cleanup Day に積極的に参加する戦略を考案してきました。活動内容はごみ収集、側溝のクリーンアップ、街や海岸のクリーンアップなど多岐にわたります。これらの革新的な取り組みは、国内オリンピック委員会によって実行され、政府や市民社会のパートナーと協力して、アフリカ全土でこのイベントを確実に成功させてきました。ANOCAは、スポーツを環境に優しい活動と持続可能な開発の中核に据えることを優先する価値観を一貫して支持しています。さらにこの組織は、アフリカの若者の間にクリーンなスポーツ環境を維持することの重要性についての意識を高めることを目的としています。



# 重要業績評価指標

## World Cleanup Day 参加者数

### 概要

World Cleanup Dayに  
何人がごみ拾いに来たか

### 方法

WCDのコールセンターと  
国別報告及び  
メディアモニタリング

### 2023年の目標

参加各国の人口5%

### 2023年の結果

**1,910万人**

## 人口参加率5%超の WCD参加国数

### 概要

LDIWのネットワークで  
国民の5%以上が関与した国は  
いくつか

### 方法

LDIW各国リーダーの  
WCD報告書

### 2023年の目標

30カ国

### 2023年の結果

**3カ国**

## World Cleanup Day 参加国数

### 概要

World Cleanup Dayに  
何カ国が参加したか

### 方法

LDIWネットワークの国、  
LDIWパートナーによって  
動員された国、  
WCDウェブページでの  
報告、メディアモニタリング

### 2023年の目標

190カ国

### 2023年の結果

**198カ国**

## World Cleanup Day で回収されたごみの量

### 概要

World Cleanup Dayで  
何トンごみが収集されたか

### 方法

LDIW各国リーダーの  
WCD報告書

### 2023年の目標

100万トン

### 2023年の結果

**218,704トン**

## 公共機関が World Cleanup Dayに 関与した国の割合

### 概要

公共機関、政府関係者が国、  
または地域レベルで資金調達、清掃、  
コミュニケーション面に協力、  
参加した国の割合

### 方法

ネットワーク調査

### 2023年の目標

行政 80%  
大統領・首相 20%  
大臣 60%

### 2023年の結果

行政 77%  
企業代表 56%  
大統領 4%  
首相 7%  
環境大臣 30%  
その他の大臣 18%

## ソーシャルメディアの フォロワー数

### 概要

ローカルネットワークチャンネルと  
WCDグローバルチャンネルの  
両方の合計フォロワー数

### 方法

ソーシャルメディアとデータ分析

### 2023年の目標

Facebook: 200,000  
Instagram: 70,000  
X: 3,000  
TikTok: 10,000

### 2023年の結果

Facebookグローバル: 152,000  
Instagram: 52,500  
LinkedIn: 2,503  
TikTok: 178  
YouTube: 11,500  
Facebook総数: 1,500,000

## ネットワーク内リーダー の幸福度 (10段階評価)

### 概要

リーダーが自分のしている仕事が  
どれだけインパクトがあり、どれだけ強く  
ネットワークに属していると感じているか、  
またそれ相応の評価を得ていると  
感じているか、など

### 方法

ネットワーク調査

### 2023年の目標

8.0

### 2023年の結果

**7.53**  
(86カ国)





# Thank you!

